

2025 年度
調査報告書

国民スポーツ大会に関する開催地住民調査
(2025年度調査)



笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

目次

調査概要	1
1. スポーツ・身体活動・生活習慣	3
2. 国民スポーツ大会への関与・意識	12
3. 暮らしに関する意識	19
参考文献	26
付録 調査票	27

調査概要

1) 調査概要

【調査目的】

国民スポーツ大会が開催地住民に与える社会的効果を検証する。

【調査方法・調査対象】

「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」(第 80 回国民スポーツ大会および第 25 回全国障害者スポーツ大会、以下「国スポ・障スポ」と略記)の会場のひとつである青森県青森市に在住する 18 歳以上の住民 2,000 名を対象とした郵送法。サンプリングで市内の地区別の人口構成比に応じた割り付けを行い、対象者には質問紙またはウェブアンケートによる回答を求めた。

【有効回答数】

958(有効回収率 47.9%)

【調査時期】

2026 年 2～3 月

国スポ本大会および障スポ開催(2026 年 10 月)後に、今回回答のあった対象者に 2 回目の調査を実施予定。

【主な調査項目】

- 1) スポーツ・身体活動・生活習慣: 1 年間の運動・スポーツ実施頻度、みるスポーツ・ささえるスポーツ、余暇における中高強度の身体活動、日常生活における中高強度の身体活動、生活習慣
 - 2) 国民スポーツ大会への関与・意識: 大会の認知、大会の詳細に関する認知、冬季大会への関与、国スポ本大会・障スポの観戦意向、あおもり国スポ・障スポについての意見
 - 3) 暮らしに関する意識: 幸福度、地域における付き合い(社会関係)、社会関係の正の側面、社会関係の負の側面、孤独感、市の住みやすさ・今後の居住意向
- その他基本属性など

2) 体制

本研究は以下の体制で実施した。所属・肩書はすべて 2026 年 3 月時点のものである。

研究代表者 神野 賢治(富山大学教育学部 准教授)

調査担当 宮本 幸子(笹川スポーツ財団 シニア政策ディレクター)

郡山さくら(笹川スポーツ財団 政策オフィサー)

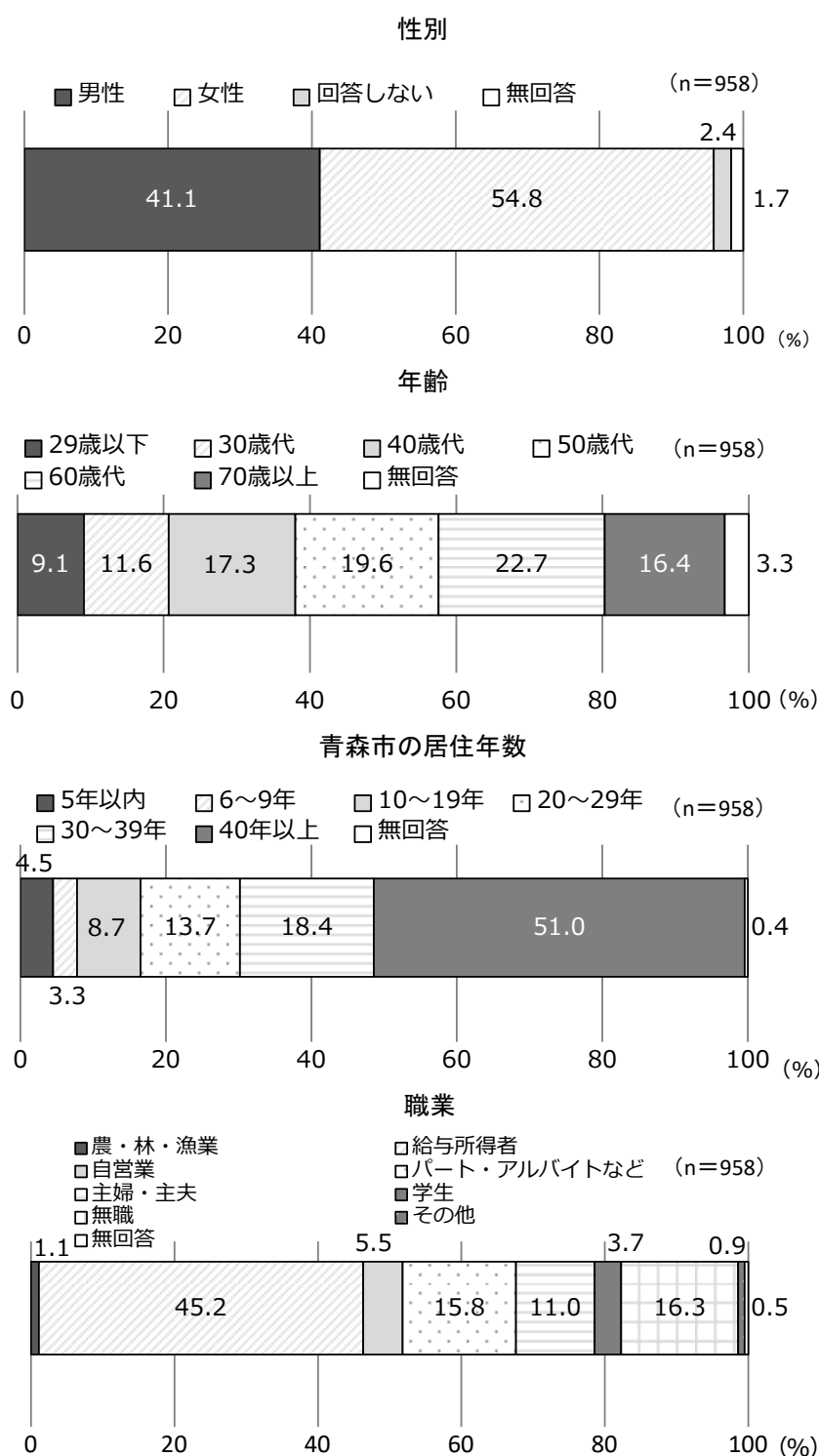
神野先生は 2026 年 5 月に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、本研究の企画・設計に多大なご尽力をいただいたことに深く感謝申し上げます。なお、本報告書の分析および執筆は笹川スポーツ財団が担当いたしました。

3) 調査結果を読む上での注意点

本文および図表中のパーセント表示は、小数点第二位を四捨五入した値を記載しているため、合計が100%にならない場合がある。

4) 基本属性

本調査における回答者の基本属性は以下のとおりである。



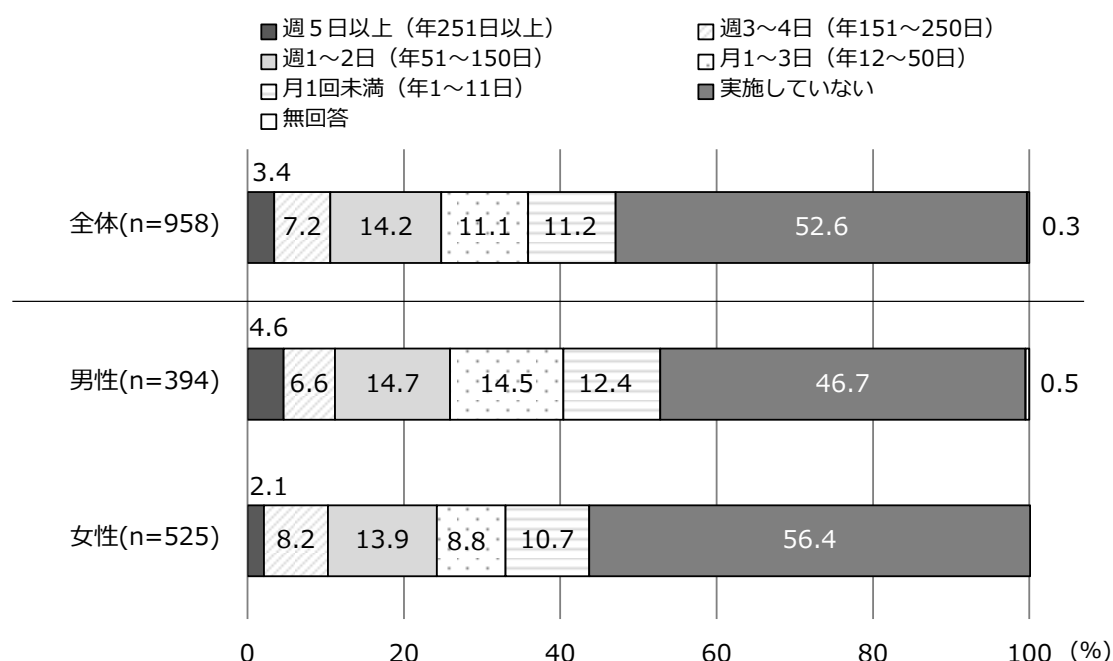
1. スポーツ・身体活動・生活習慣

1.1 1年間の運動・スポーツ実施頻度

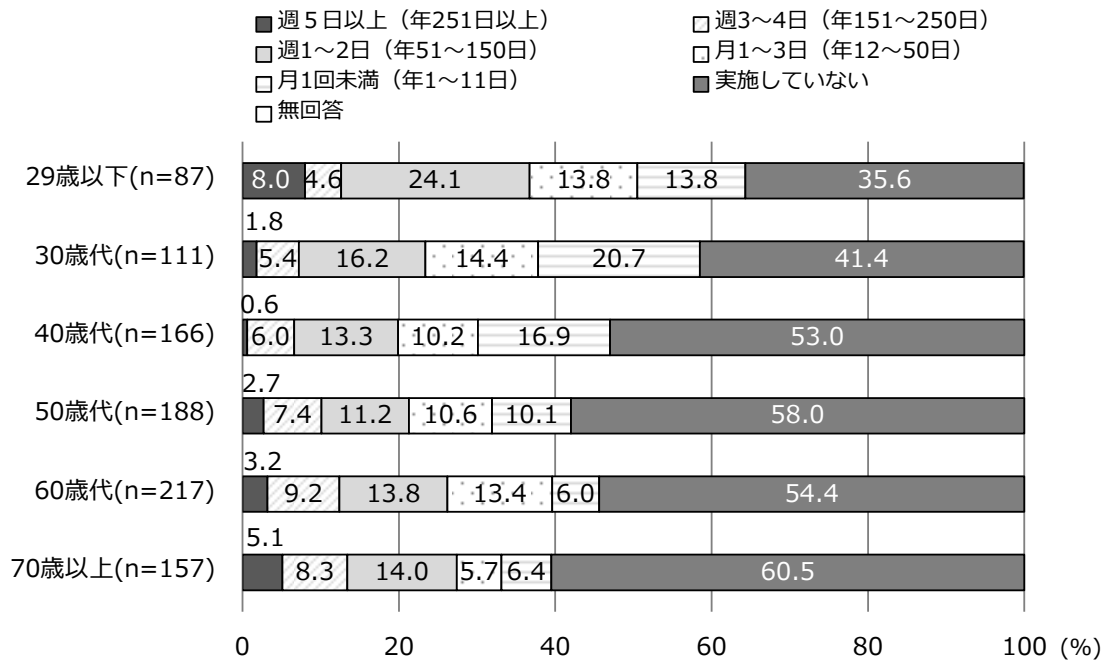
過去1年間の運動・スポーツ実施頻度について「週5日以上」から「実施していない」までの6段階で回答を得た。全体では「実施していない」52.6%が最も高く、次いで「週1～2日」14.2%、「月1回未満」11.2%、「月1～3回」11.1%、「週3～4日」7.2%、「週5日以上」3.4%であった(図表1-1-1)。性別にみると、男女とも「実施していない」が最も高く、男性46.7%、女性56.4%であった。男性では「週1～2日」14.7%、「月1～3回」14.5%、「月1回未満」12.4%が続き、女性では「週1～2日」13.9%、「月1回未満」10.7%、「月1～3回」8.8%の順であった。過去1年間の運動・スポーツ実施率は男性のほうが高い傾向にあった。

年代別にみると、「週5日以上」「週3～4日」「週1～2日」を合計した割合は、29歳以下で36.7%と最も高く、70歳以上27.4%、60歳代26.2%と続いた(図表1-1-2)。30歳代23.4%、40歳代19.9%、50歳代21.3%であり、30～50歳代の働き盛り期世代で定期的な運動・スポーツ実施率が低い。「実施していない」は、40歳代以降でいずれも5割を上回り、70歳以上が60.5%と最も高かった。年代が上がるほど「実施していない」の割合が高く、60歳代および70歳以上では、定期的に運動・スポーツを実施している者とまったく実施していない者の両極に偏りがみられた。

図表1-1-1 1年間の運動・スポーツ実施頻度(全体・性別)



図表 1-1-2 1年間の運動・スポーツ実施頻度(年代別)



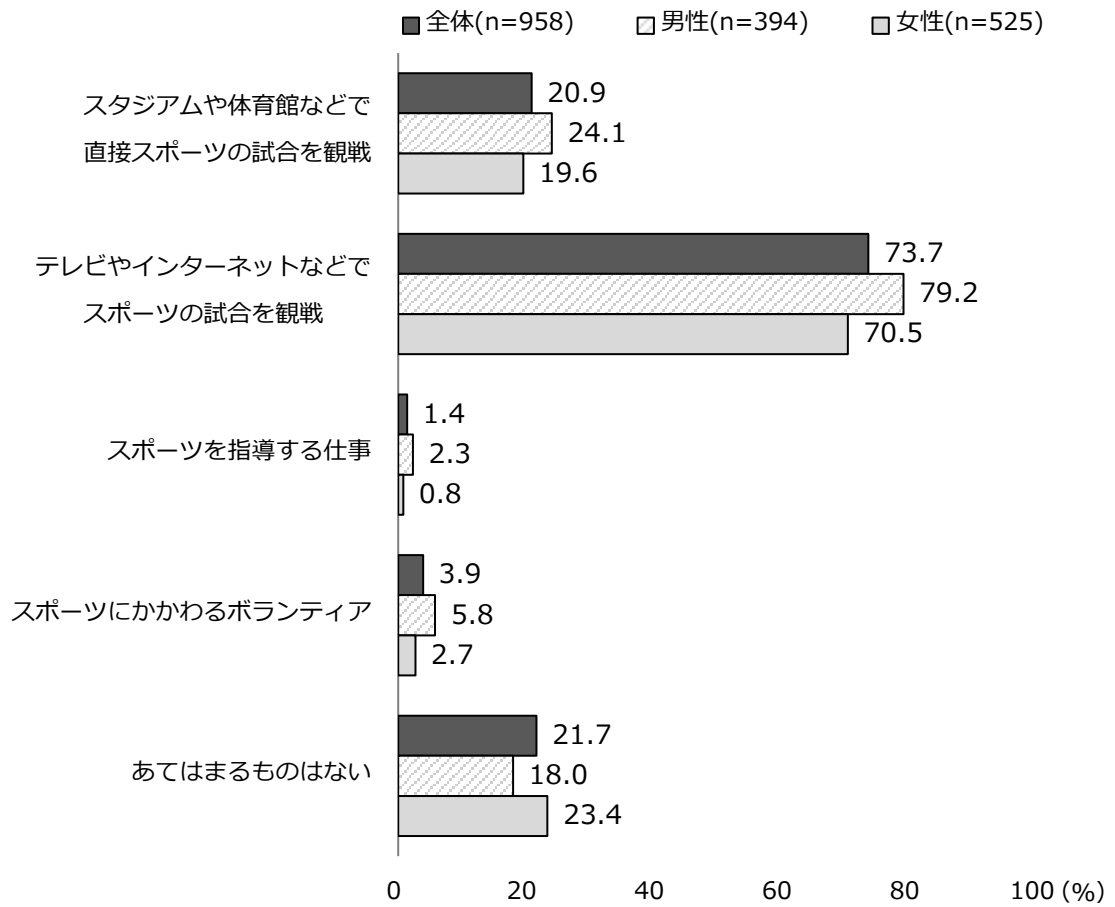
1.2 みるスポーツ・ささえるスポーツ

過去1年間のみるスポーツ・ささえるスポーツの経験(あおり国スポを除く)について、複数回答でたずねた。全体では「テレビやインターネットなどでスポーツの試合を観戦」73.7%が最も高く、次いで「あてはまるものはない」21.7%、「スタジアムや体育館などで直接スポーツの試合を観戦」20.9%、「スポーツにかかわるボランティア」3.9%、「スポーツを指導する仕事」1.4%であった(図表 1-2-1)。

性別にみると、男性は「テレビやインターネットなどでスポーツの試合を観戦」79.2%、「スタジアムや体育館などで直接スポーツの試合を観戦」24.1%、「あてはまるものはない」18.0%、「スポーツにかかわるボランティア」5.8%、「スポーツを指導する仕事」2.3%の順であった。女性は「テレビやインターネットなどでスポーツの試合を観戦」70.5%、「あてはまるものはない」23.4%、「スタジアムや体育館などで直接スポーツの試合を観戦」19.6%、「スポーツにかかわるボランティア」2.7%、「スポーツを指導する仕事」0.8%と続いた。「あてはまるものはない」を除いたすべての項目で、男性が女性を上回った。

年代別にみると、「スタジアムや体育館などで直接スポーツの試合を観戦」は40歳代30.7%が最も高く、3割を上回った(図表 1-2-2)。次いで30歳代26.1%、29歳以下24.1%、50歳代22.3%、60歳代16.1%、70歳以上10.8%の順で、40歳代以降は年代が上がるにつれて減少した。「テレビやインターネットなどでスポーツの試合を観戦」は40歳代までは6割台にとどまる一方で、50歳代以降では約8割が経験していた。「スポーツを指導する仕事」では、29歳以下4.6%が最も高く、次いで30歳代2.7%であった。40歳代以降はいずれも0~1%台と、仕事としてスポーツを指導する者は若年層に多かった。「スポーツにかかわるボランティア」は29歳以下で10.3%と最も高く、年代が上がるにつれて低くなり、60歳代0.5%、70歳以上2.5%であった。「あてはまるものはない」は、40歳代以下では約3割、50歳代以降では2割未満であった。

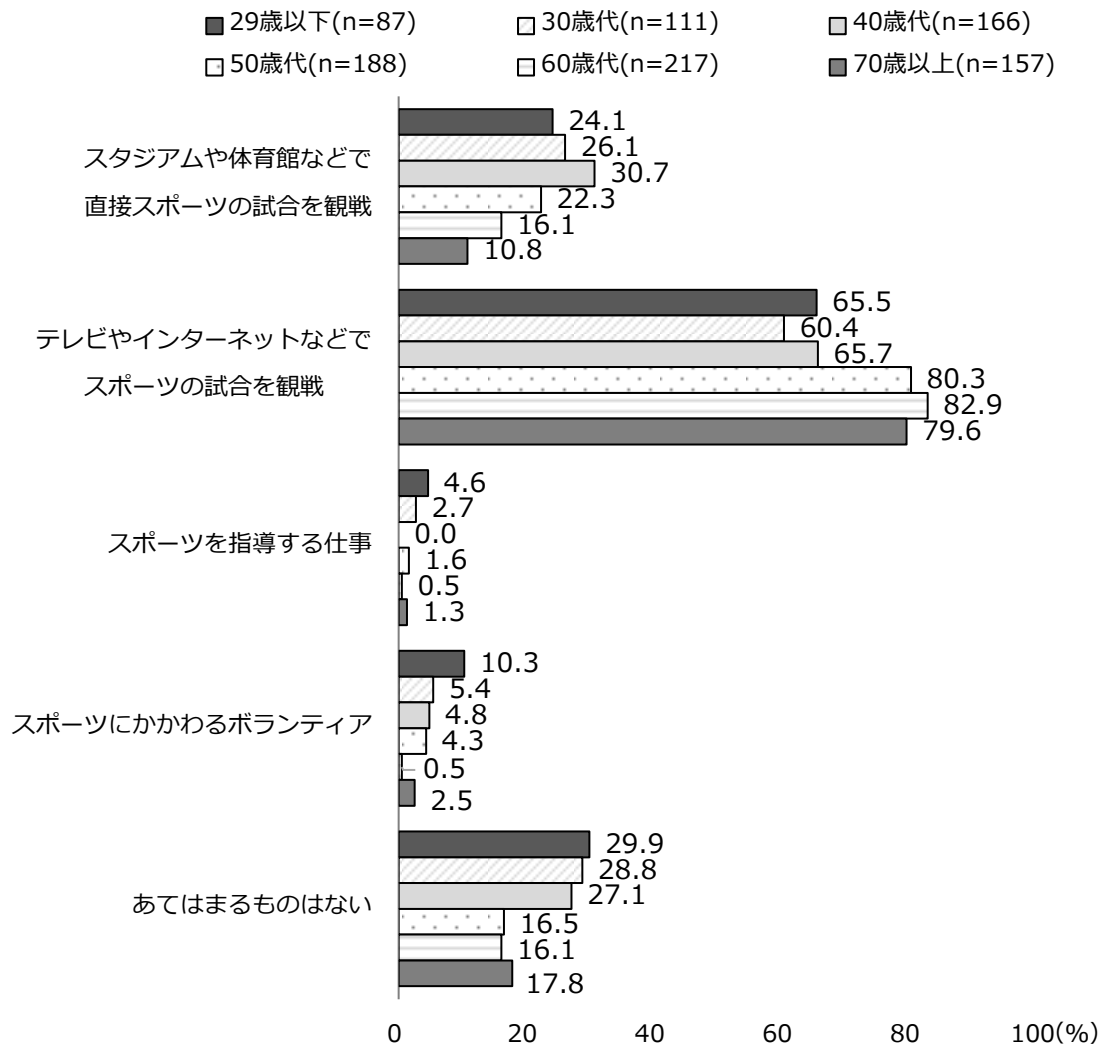
図表 1-2-1 みるスポーツ・ささえるスポーツ(全体・性別)



注1) 複数回答。

注2) 「スポーツにかかわるボランティア」は、無償または実費程度で行う指導・審判・大会運営などを指す。

図表 1-2-2 みるスポーツ・ささえるスポーツ(年代別)



注1) 複数回答。

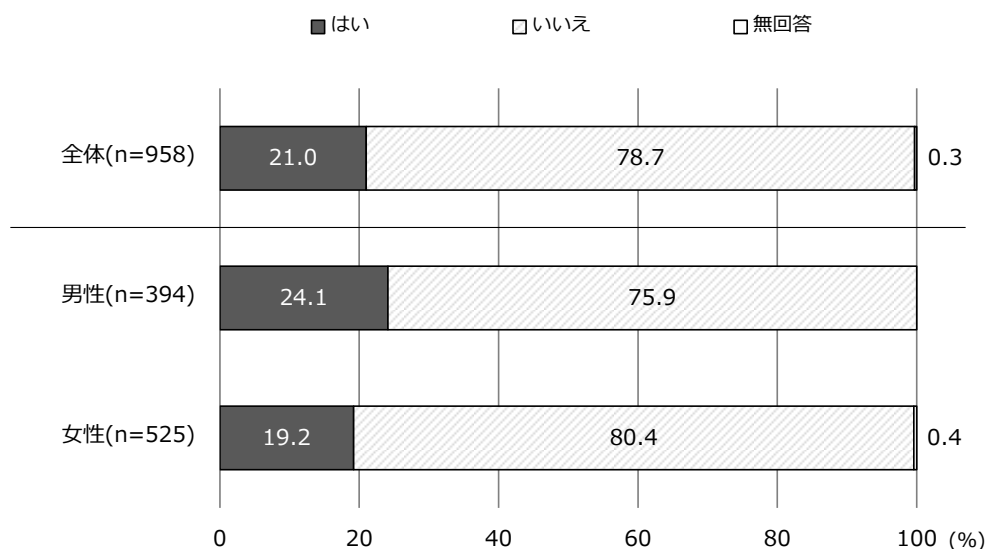
注2) 「スポーツにかかわるボランティア」は、無償または実費程度で行う指導・審判・大会運営などを指す。

1.3 過去 1 週間の余暇における中高強度の身体活動

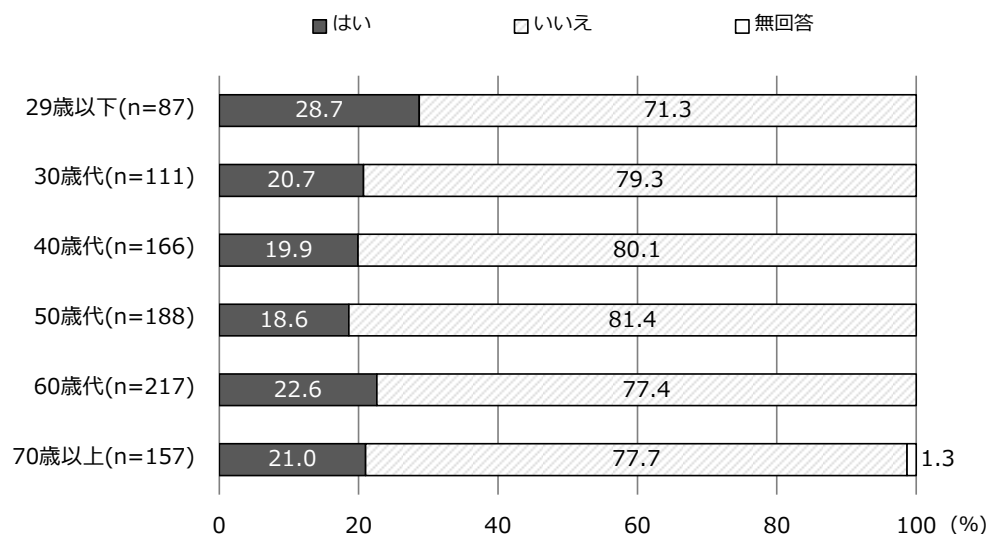
余暇における中高強度の身体活動(以下、余暇身体活動)の実施状況について、「過去 1 週間で休日または仕事・家事・移動以外の自由時間に、中程度以上の運動・スポーツを実施しましたか(例:軽いジョギング、水泳など)」の問いに対し「はい」「いいえ」の 2 択で回答を得た。全体では 21.0%が余暇身体活動を実施していた(図表 1-3-1)。性別にみると、男性では 24.1%、女性では 19.2%が実施していた。年代別では 29 歳以下 28.7%が最も高く、ほかの年代はいずれも 20%前後であった(図表 1-3-2)。

余暇身体活動を実施した者に対して、実施頻度および 1 回あたりの実施時間をたずねた。図表は割愛するが、実施頻度については全体では「週 1～2 日」66.7%、「週 3～4 日」23.9%、「週 5 日以上」9.5%と続いた。1 回あたりの実施時間については、全体では「1～2 時間未満」37.3%が最も高く、「30～60 分未満」29.4%、「30 分未満」18.4%と続いた。性別にみると、男性のほうが実施頻度が高く、1 回あたりの実施時間も長かった。

図表 1-3-1 余暇における中高強度の身体活動(全体・性別)



図表 1-3-2 余暇における中高強度の身体活動(年代別)



1.4 過去 1 週間の日常生活における中高強度の身体活動

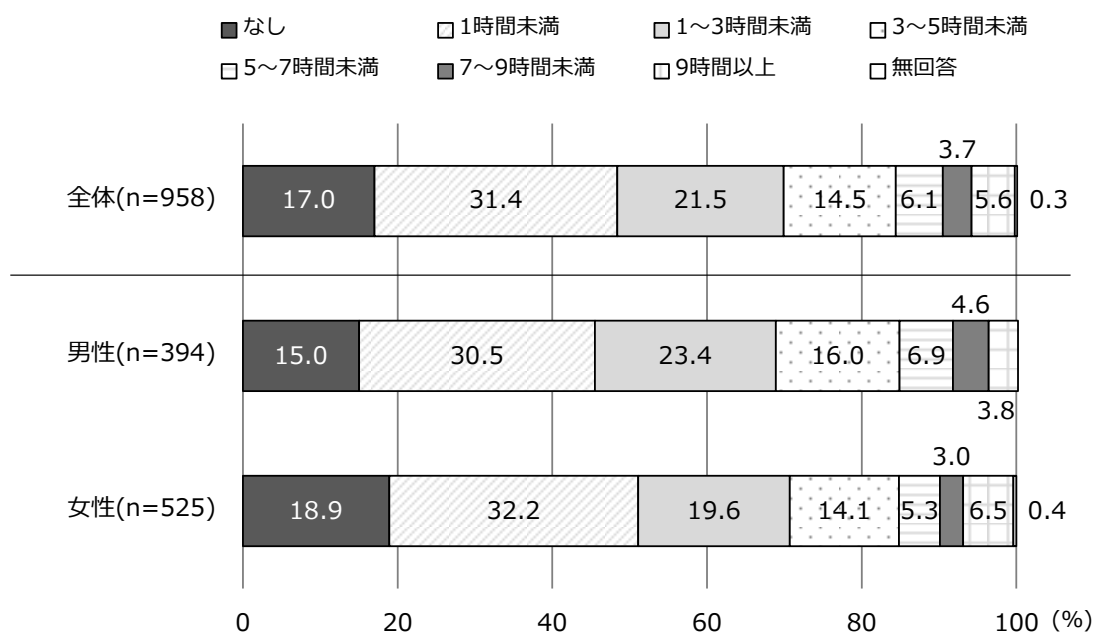
日常生活における中高強度の身体活動時間について、「過去 1 週間、仕事・家事・移動などの日常生活の中で、1 日の力作業を行った時間はどれにあてはまりますか(例:耕作、雪かき、子どもや動物と活発に遊ぶなど)」の問いに対し、「なし」から「11 時間以上」の 8 段階で回答を得た。「9～11 時間未満」は少数であったため、「11 時間以上」と合計し「9 時間以上」として数値を示している。

全体では「1 時間未満」31.4%が最も高く、次いで「1～3 時間未満」21.5%であった。「なし」は 17.0%、「3～5 時間未満」は 14.5%であり、「5～7 時間未満」以上はいずれも 1 割未満であった(図表 1-4-1)。性別にみると、男女ともに「1 時間未満」が最も多く、男性 30.5%、女性 32.2%であった。男性は「1～3 時間未満」23.4%、「3～5 時間未満」16.0%、「なし」15.0%が続き、女性は「1～3 時間未満」19.6%、「なし」18.9%、「3～5 時間未満」14.1%の順であった。5 時間以上を合計した割合は男女とも 1 割台で、大きな差はみられなかった。

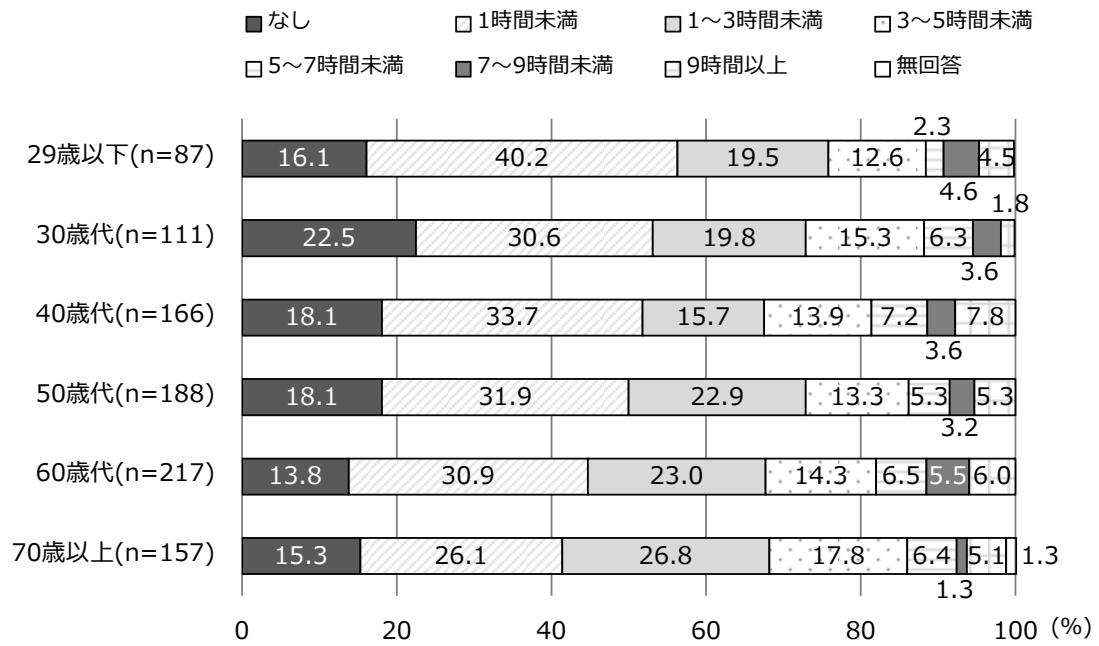
年代別にみると、「なし」と「1 時間未満」を合計した割合は 29 歳以下 56.3%が最も高く、30 歳代 53.1%、40 歳代 51.8%、50 歳代 50.0%、60 歳代 44.7%、70 歳以上 41.4%と、年代が高いほど日常生活における身体活動時間が短い者は少ない(図表 1-4-2)。5 時間以上を合計した割合は 40 歳代 18.6%が最も高く、次いで 60 歳代 18.0%であった。30 歳代では 11.7%、29 歳以下は 11.4%であり、30 歳代以下は日常生活における中高強度の身体活動時間が短い傾向がみられた。

また、40 歳代では「なし」と「1 時間未満」の合計が約 5 割を占めるものの、5 時間以上の割合もほかの年代に比べて高く、身体活動時間が長い者と短い者の双方に偏る傾向がみられた。70 歳以上では「なし」と「1 時間未満」の合計が最も低い一方で、「1～3 時間未満」や「3～5 時間未満」が多く、年代によって異なる特徴がみられた。

図表 1-4-1 日常生活における中高強度の身体活動(全体・性別)



図表 1-4-2 日常生活における中高強度の身体活動(年代別)



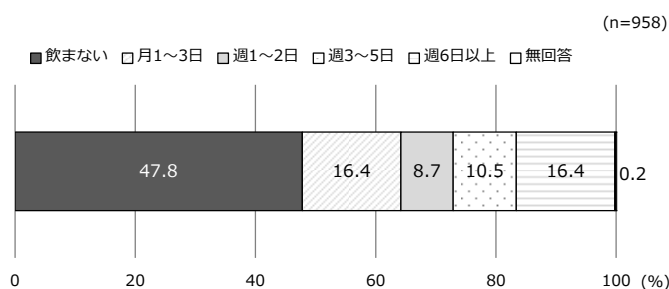
1.5 生活習慣

生活習慣として、普段の飲酒や喫煙の状況、睡眠時間についてたずねた。飲酒の頻度は「飲まない」から「週 6 日以上」の 5 段階で回答を得たところ、「飲まない」47.8%が最も高く、半数近くを占めた(図表 1-5-1)。「月 1～3 日」と「週 6 日以上」が同率で 16.4%、「週 3～5 日」10.5%、「週 1～2 日」8.7%と続いた。図表は割愛するが、性別にみると飲酒の頻度は男性が女性を上回った。年代別では「飲まない」を除くと、30 歳代以下では「月 1～3 日」、40 歳代以降では「週 6 日以上」が最も高く、年代による飲酒状況の違いが明らかになった。

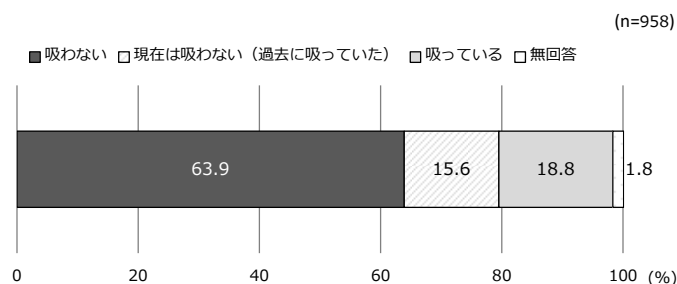
喫煙状況について、「吸わない」から「吸っている」の 3 段階で回答を得たところ、「吸わない」63.9%が最も高く、6 割以上が非喫煙者であった(図表 1-5-2)。次いで「吸っている」18.8%、「現在は吸わない(過去に吸っていた)」15.6%の順であった。属性別にみると、女性と比べて男性の喫煙率が高かった。年代別では「吸っている」が最も高いのは 40 歳代、「吸わない」が最も高いのは 29 歳以下であった。

睡眠時間について、「6 時間未満」「6 時間以上」の 2 段階で回答を得たところ、厚生労働省の「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」で推奨されている「6 時間以上」は 60.6%であった(図表 1-5-3)。睡眠状況については性別による特徴はみられず、年代別では 50 歳代のみで「6 時間以上」が 5 割を下回った。

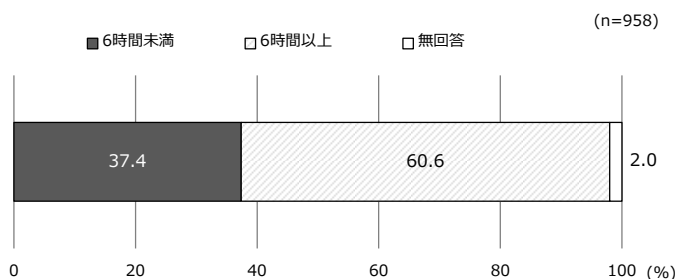
図表 1-5-1 生活習慣・飲酒(全体)



図表 1-5-2 生活習慣・喫煙(全体)



図表 1-5-3 生活習慣・睡眠(全体)



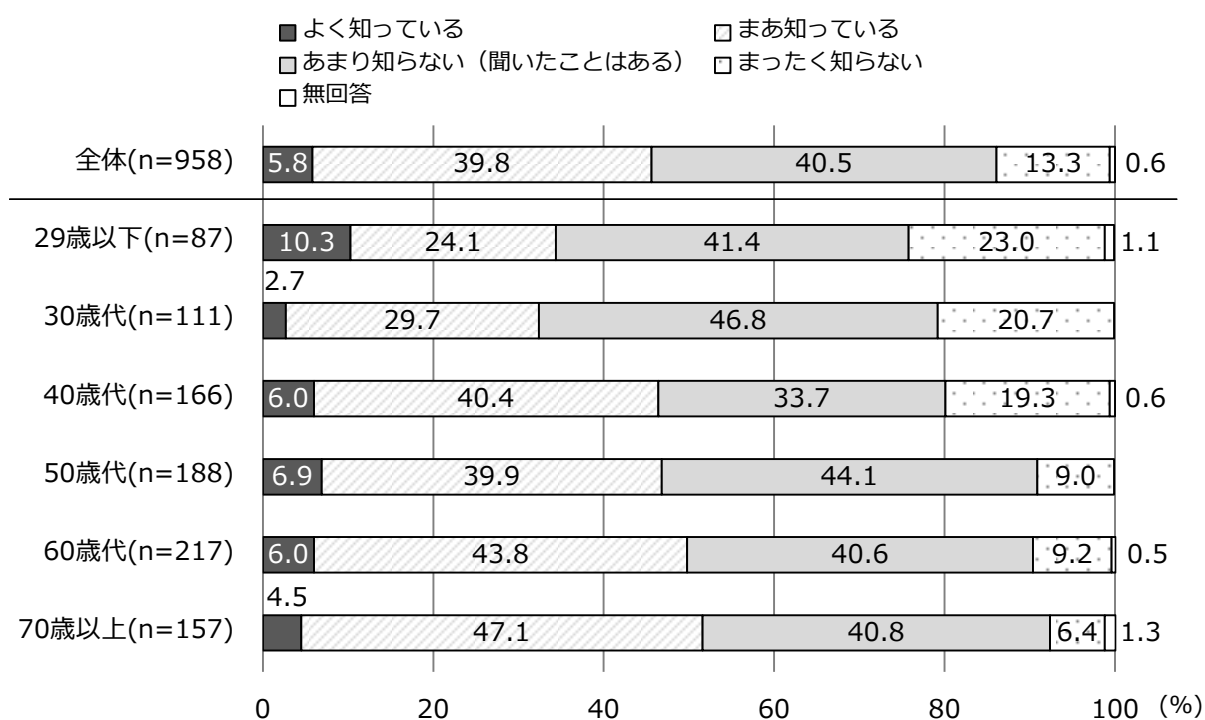
2. 国民スポーツ大会への関与・意識

2.1 大会の認知

「あおり国スポ」についてどの程度知っているかをたずね、全体・年代別に集計した(図表 2-1)。全体では「よく知っている」が 5.8%、「まあ知っている」が 39.8%で、あわせて 45.6%の住民が大会を認知していた。

年代別に「よく知っている」と「まあ知っている」の合計値をみると、29 歳以下では 34.4%、30 歳代では 32.4%とそれぞれ 3 割程度であったのに対して、40 歳代以降では 5 割前後に達した。「まったく知らない」の割合は 29 歳以下～40 歳代では約 2 割であったが、50 歳代以降では 1 割を下回った。

図表 2-1 大会の認知(全体・年代別)



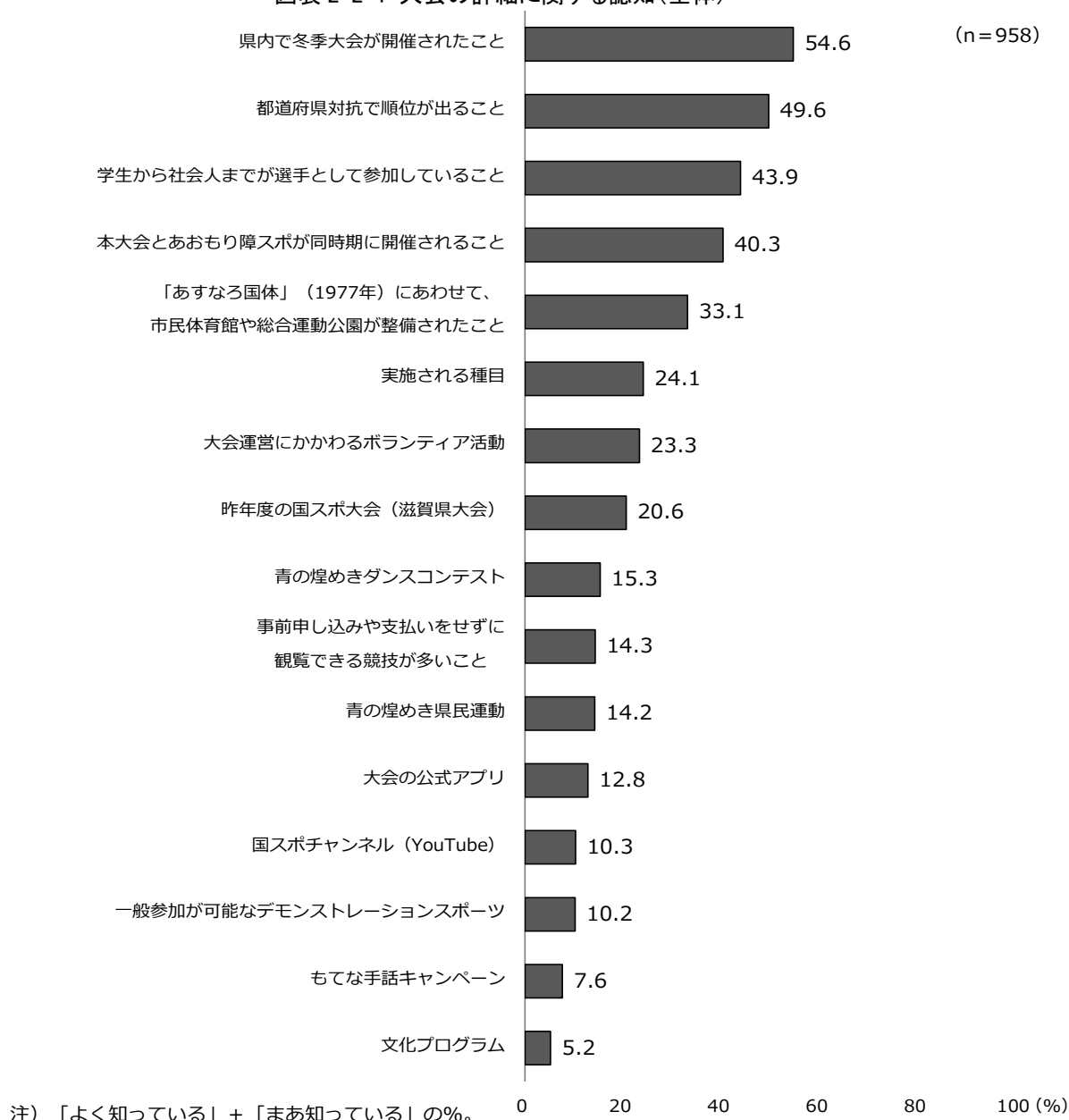
2.2 大会の詳細に関する認知

大会のルールや各種プログラムなどの詳細に関する認知をたずねた。「よく知っている」と「まあ知っている」の合計値をみると、全体では「県内で冬季大会が開催されたこと」が 54.6%と最も高かった(図表 2-2-1)。続いて「都道府県対抗で順位が出ること」49.6%、「学生から社会人までが選手として参加していること」43.9%、「本大会とあおり障スポが同時期に開催されること」40.3%の 3 項目が 4 割を超えた。

過去の大会に関する事項では、「『あすなろ国体』(1977 年)にあわせて、市民体育館や総合運動公園が整備されたこと」が 33.1%、「昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)」が 20.6%であった。また、「実施される種目」は 24.1%、「大会運営にかかわるボランティア活動」は 23.3%と、2 割強が認知していた。

市内・県内で展開されている各種プログラムについては、「青の煌めきダンスコンテスト」15.3%、「青の煌めき県民運動」14.2%、「もてな手話キャンペーン」7.6%、「文化プログラム」5.2%と、1 割前後の認知であった。

図表 2-2-1 大会の詳細に関する認知(全体)



なお、「事前申し込みや支払いをせずに観覧できる競技が多いこと」は、あおもり国スポに限らずこれまでの国民スポーツ大会に共通する仕組みであるが、「知っている」は 14.3%にとどまり、ほかのルールに比べると認知度が低かった。

各項目の認知度には、年代によって差がみられるものも含まれる(図表 2-2-2)。全体の認知が最も高かった「県内で冬季大会が開催されたこと」は、50 歳代 56.4%、60 歳代 66.9%、70 歳以上 61.8%と半数以上が認知していたのに対し、29 歳以下は 42.5%、30 歳代では 39.6%と約 4 割であった。同様に「都道府県対抗で順位が出ること」や「学生から社会人までが選手として参加していること」、「本大会とあおもり障スポが同時期に開催されること」『あすなろ国体』(1977 年)にあわせて、市民体育館や総合運動公園が整備されたこと」も、50 歳代以降で認知が高い傾向がみられた。また、「昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)」は 70 歳以上で 29.9%と、特に割合が高かった。

一方、若年層の認知が高い項目もみられ、「大会運営にかかわるボランティア活動」は 29 歳以下で 32.2%と、ほかの年代を上回った。また、2025 年度内に動画審査および決勝大会が行われた「青の煌めきダンスコンテスト」の認知度は 29 歳以下 18.3%、30 歳代 24.3%、40 歳代 22.9%であり、50 歳代以降に比べて高かった。このほか、観戦ガイドや競技会場の案内がみられる「大会の公式アプリ」は、40 歳代 16.9%および 50 歳代 16.5%で高かった。

図表 2-2-2 大会の詳細に関する認知(年代別)

	(%)					
	29歳以下 (n=87)	30歳代 (n=111)	40歳代 (n=166)	50歳代 (n=188)	60歳代 (n=217)	70歳以上 (n=157)
県内で冬季大会が開催されたこと	42.5	39.6	46.4	56.4	66.9	61.8
都道府県対抗で順位が出ること	31.0	31.5	43.4	51.6	63.1	57.3
学生から社会人までが選手として参加していること	34.4	22.5	39.1	46.8	55.7	49.7
本大会とあおもり障スポが同時期に開催されること	29.9	36.0	39.1	41.5	46.0	43.3
「あすなろ国体」(1977年)にあわせて、 市民体育館や総合運動公園が整備されたこと	19.5	12.6	18.1	32.9	48.8	49.0
実施される種目	26.4	18.9	23.5	22.4	28.1	26.1
大会運営にかかわるボランティア活動	32.2	20.7	22.3	24.0	21.7	24.9
昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)	17.2	10.8	16.2	21.8	22.6	29.9
青の煌めきダンスコンテスト	18.3	24.3	22.9	13.8	9.2	10.9
事前申し込みや支払いをせずに観覧できる競技が多いこと	9.2	9.9	15.0	17.1	16.6	14.0
青の煌めき県民運動	17.2	18.0	14.4	13.3	11.0	16.5
大会の公式アプリ	6.9	9.0	16.9	16.5	11.9	12.1
国スポチャンネル(YouTube)	13.7	9.0	13.8	11.7	7.4	8.9
一般参加が可能なデモンストレーションスポーツ	8.0	8.1	10.2	9.1	11.5	12.7
もてな手話キャンペーン	5.7	5.4	10.2	5.9	6.9	10.8
文化プログラム	5.7	2.7	6.6	4.3	5.6	7.0

注) 「よく知っている」+「まあ知っている」の%。

2.3 冬季大会への関与

「あおもり国スポ冬季大会」への関わりについて、複数回答でたずねた。「インターネット等で観戦した」が5.1%、「現地で観戦した」が1.0%であった(図表2-3-1)。大会の運営に関わる「ボランティア」「競技補助員」「学校のおもてなし活動(花飾り・応援等)」はいずれも1%未満であった。「その他」の具体的な記述には、職場の協賛などがあげられた。なお、冬季大会は八戸市などで開催され、青森市は競技会場となっていなかった事情もあり、「まったく関わりがない」が90.6%を占め、「選手」「指導者(監督・コーチ等)」「演技者」「式典音楽隊(吹奏楽・合唱)」は該当者がいなかった。

冬季大会への関与で最も多かった「インターネット等で観戦した」について、年代別にみると70歳以上が9.6%と最も高く、60歳代6.0%、50歳代4.8%と続き、高齢層を中心に高い傾向がみられた(図表2-3-2)。29歳以下は3.4%、30歳代は4.5%、40歳代は2.4%であった。

図表は割愛するが、この1年間のテレビやインターネットによるスポーツ観戦の有無別に集計すると、観戦経験がある場合は6.7%、ない場合は0.8%であり、普段から観戦をしている群のほうがより国スポ冬季大会を視聴していた傾向が確認できた。

図表 2-3-1 冬季大会への関与(全体)

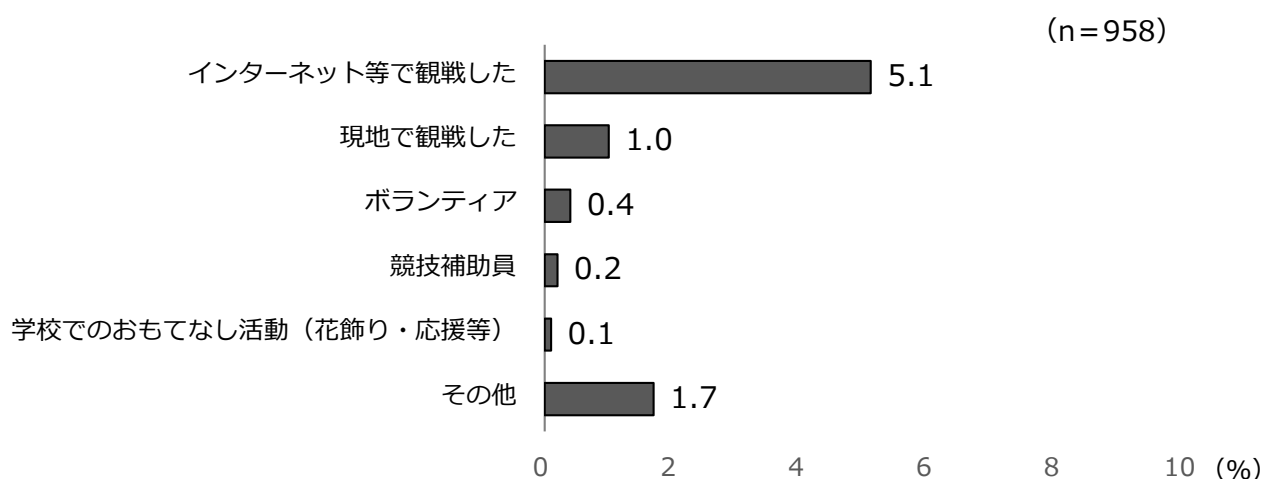
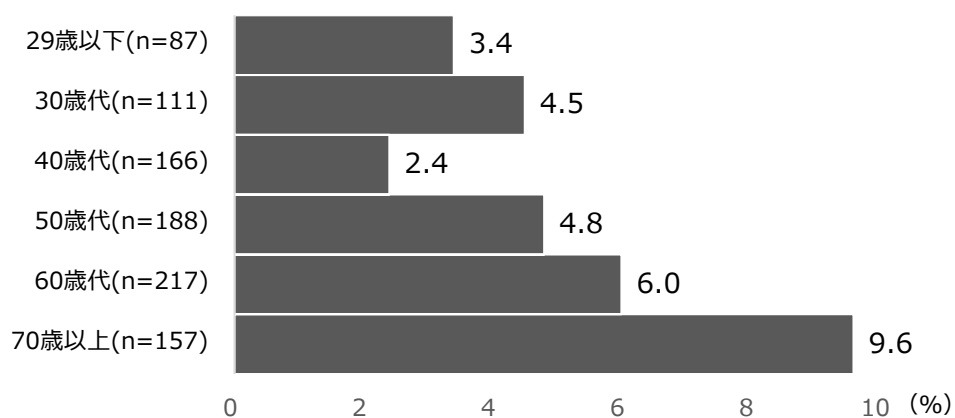


図 2-3-2 冬季大会 インターネット等での観戦率(年代別)



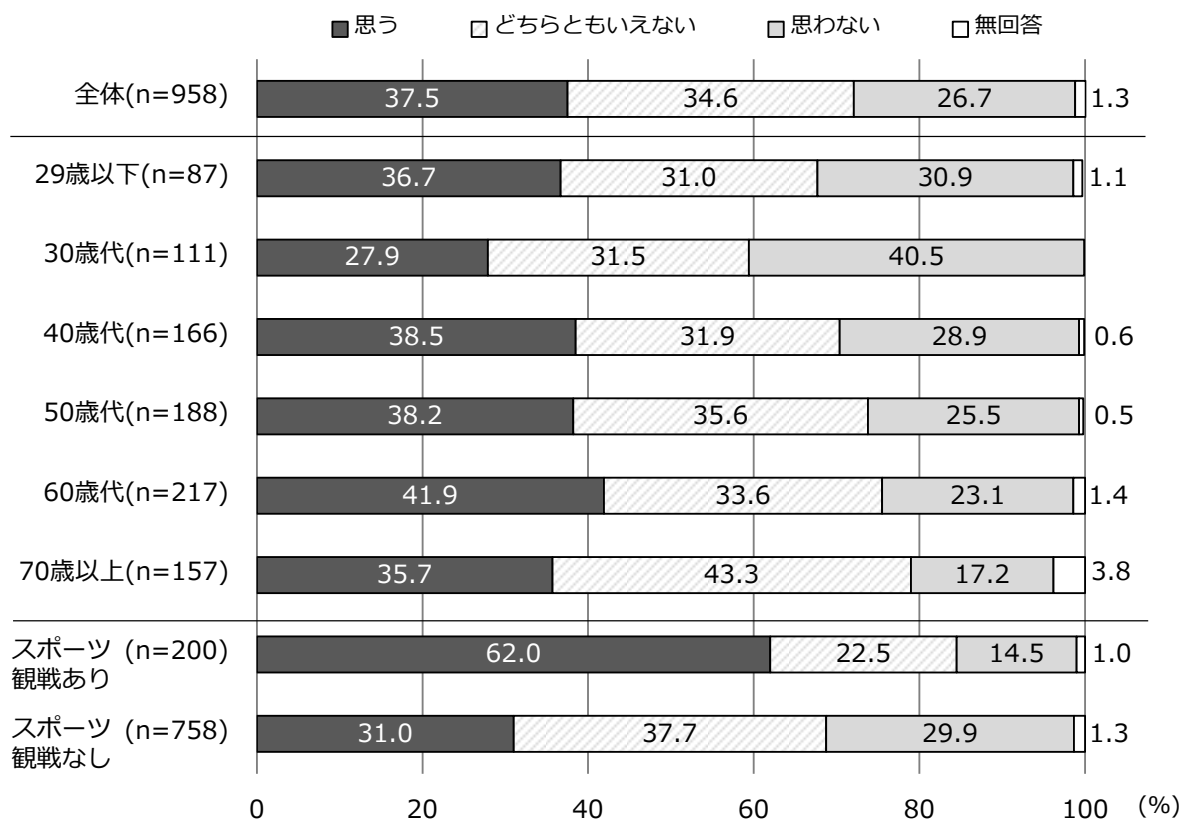
2.4 国スポ本大会・障スポの観戦意向

国スポ本大会(2026年9～10月開催予定)、障スポ(同年10月開催予定)における試合(競技)の観戦意向をたずねた。観戦意向は7段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3を「思わない」、5～7を「思う」として集計した。

国スポ本大会に関しては、全体では「思う」が37.5%、「どちらともいえない」34.6%、「思わない」26.7%であった(図表2-4-1)。年代別にみると、「思う」は30歳代で27.9%と低いものの、ほかの年代はいずれも4割前後であった。「思わない」は29歳以下30.9%、30歳代40.5%、40歳代28.9%が高く、最も低い70歳以上では17.2%と2割を下回った。

過去1年間のスポーツ観戦の有無別に分析すると、「思う」の割合は観戦あり群が62.0%、観戦なし群が31.0%となり、普段からスポーツ観戦をしている住民のほうが国スポ本大会の観戦意向も強い傾向がみられた。

図表 2-4-1 国スポ本大会の観戦意向(全体・年代別・過去1年間のスポーツ観戦有無別)



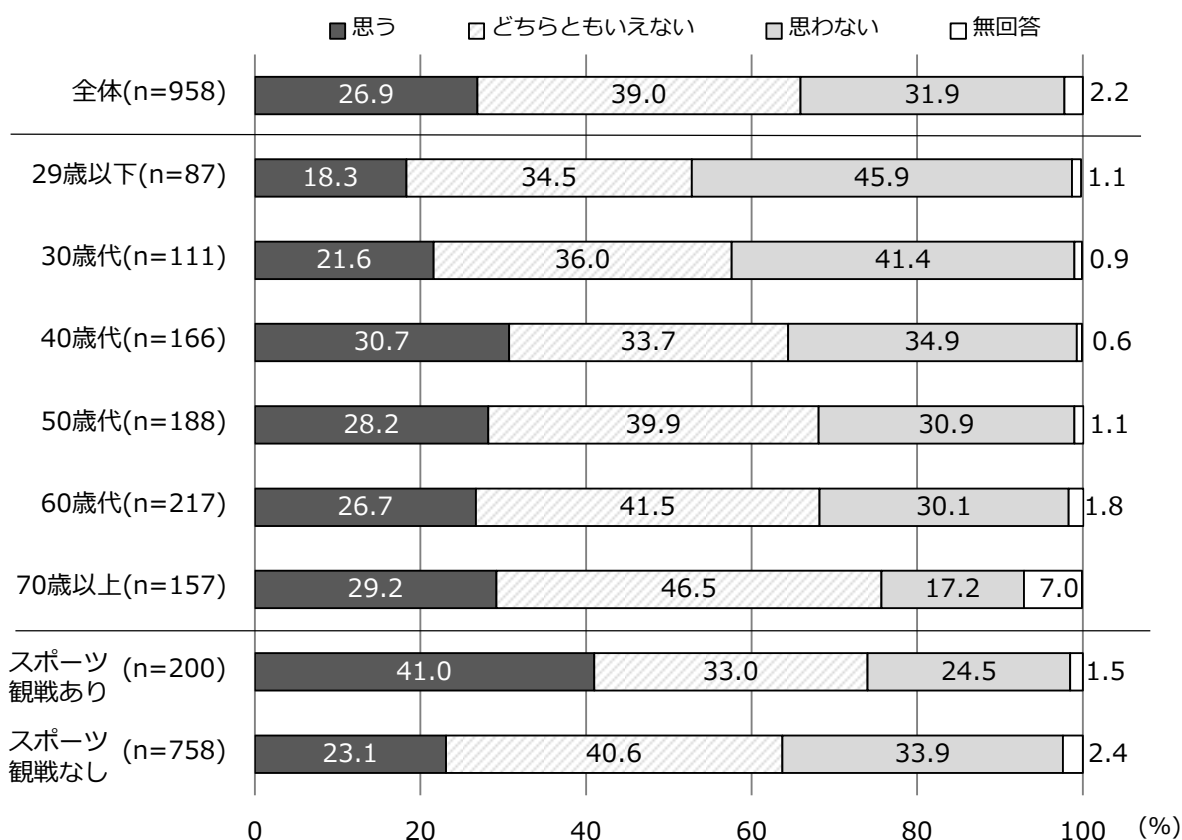
注1) 観戦意向を7段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3を「思わない」、5～7を「思う」として集計した。

注2) 「スポーツ観戦あり」「スポーツ観戦なし」は、過去1年間のスポーツ観戦(あおり国スポは除く)の有無を示す。

障スポについては、全体では「思う」が 26.9%、「どちらともいえない」39.0%、「思わない」31.9%であった（図表 2-4-2）。年代別にみると、「思う」は 29 歳以下と 30 歳代で約 2 割、40 歳代以降では約 3 割であった。「思わない」は 29 歳以下 45.9%、30 歳代 41.4%がほかの年代と比べて高かった。

国スポ本大会と同様、過去 1 年間のスポーツ観戦の有無別に分析すると、「思う」の割合は観戦あり群で 41.0%、観戦なし群で 23.1%と差がみられた。

図表 2-4-2 障スポの観戦意向(全体・年代別・過去 1 年間のスポーツ観戦有無別)



注 1) 観戦意向を 7 段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3 を「思わない」、5～7 を「思う」として集計した。

注 2) 「スポーツ観戦あり」「スポーツ観戦なし」は、過去 1 年間のスポーツ観戦(あおり国スポは除く)の有無を示す。

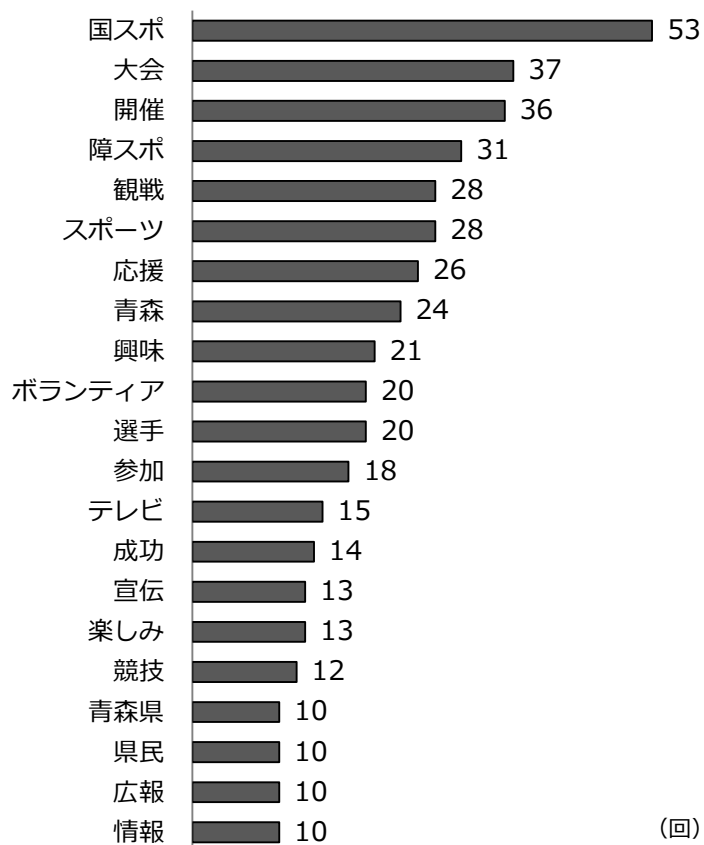
2.5 あおもり国スポ・障スポについての意見

あおもり国スポ・障スポについての意見を自由記述で記入してもらったところ、209 件の具体的な回答がみられた。単語別に出現頻度を算出し、10 回以上確認された名詞を整理した(図表 2-5)。最も多かったのは「国スポ」53 回で、「障スポ」も 31 回出現していた。「国スポ・障スポ」と併記した記述が多くみられたが、「障スポ開催にあわせて町の環境を改善してほしい」「障スポに興味がある」「障スポも国スポと同様に広報してほしい」など、障スポそのものへの期待や関心を示す意見もみられた。

全体的に大会開催に期待する声が多く、「応援」(26 回)では「応援に行きたい」「青森県を応援したい」「自分にできることがあれば応援したい」といった意見がみられ、「成功」(14 回)では大会の成功を願う声、「楽しみ」(13 回)では地元開催や大会による賑わい、競技や観戦を楽しみにしているという声が寄せられた。また、大会への参加・関与に関する意見も多く、「観戦」(28 回)では「観戦したい」という意見に加え、「観戦の方法がわからない」「観戦の案内がほしい」「気軽に観戦できるものなのかわからない」など、観戦に関する情報提供を求める声が多くみられた。「ボランティア」(20 回)でも同様に、参加への関心を示す意見と、募集や申込方法に関する情報を求める意見の双方がみられた。

要望としては周知・広報に関する意見が多く、「宣伝」(13 回)では「もっと宣伝してほしい」、「広報」(10 回)では「もっと広報すべき」「注目されるような広報が必要」など、「情報」(10 回)では「情報がない」「もう少し情報がほしい」といった意見があげられた。「テレビ」(15 回)には「テレビ番組や CM でもっと取り上げてほしい」という広報に関する意見と、「テレビ中継で競技をみられるようにしてほしい」という意見が含まれていた。

図表 2-5 あおもり国スポ・障スポについての意見(名詞の出現頻度)



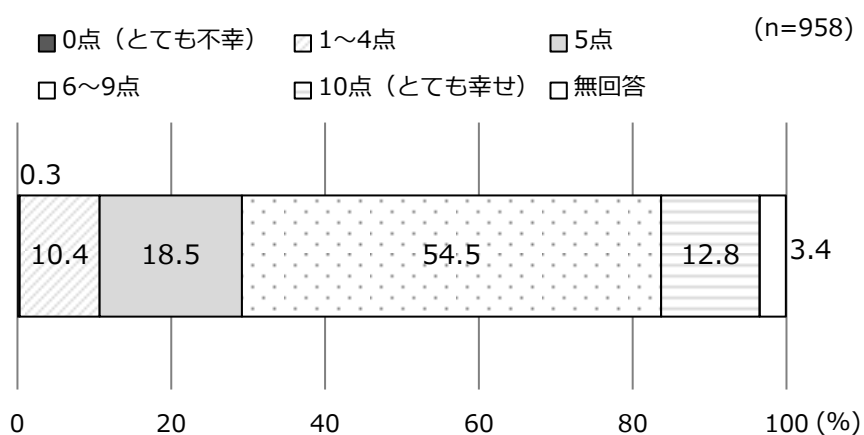
3. 暮らしに関する意識

3.1 幸福度

本章では幸福度や社会関係、孤独感、市の住みやすさなど、住民の生活や地域に対する意識について確認する。

幸福度について、「あなたは現在、どの程度幸せですか」とたずね、0点を「とても不幸」、10点を「とても幸せ」とした10段階から選択してもらった(図表3-1)。0点は0.3%、1～4点は10.4%、真ん中の得点に該当する5点は18.5%、6～9点は54.5%、10点は12.8%と、「幸せ」と評価する住民が多かった。

図表 3-1 幸福度(全体)



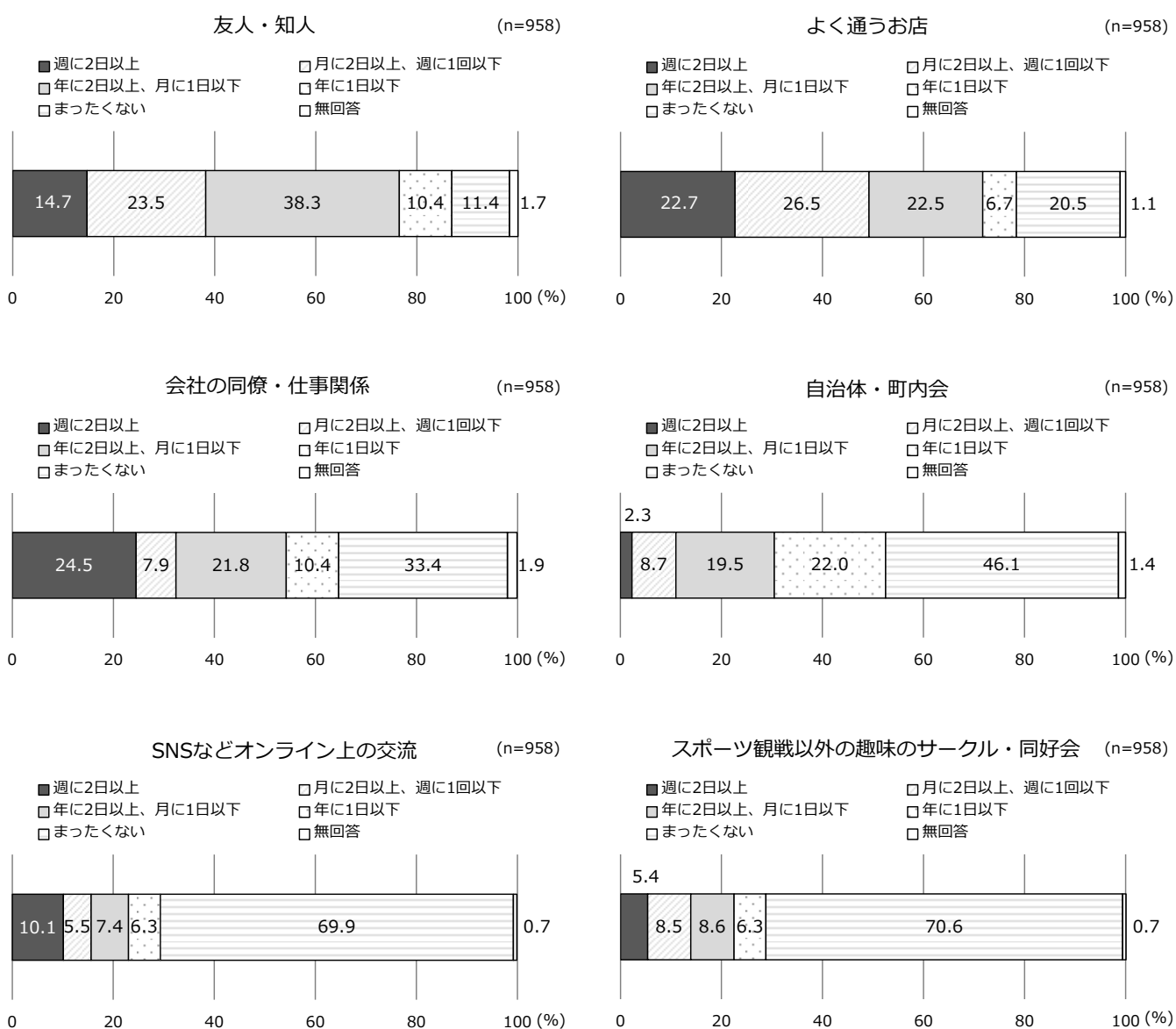
3.2 地域における付き合い（社会関係）

家族・親戚以外で、地域の人びととの付き合いの頻度をたずねた。「週に2日以上」から「年に1日以下」までを合計した割合をみると、「友人・知人」が86.9%と最も高く、次いで「よく通うお店」が78.4%であった。また、「会社の同僚・仕事関係」は64.6%、「自治体・町内会」は52.5%であった。

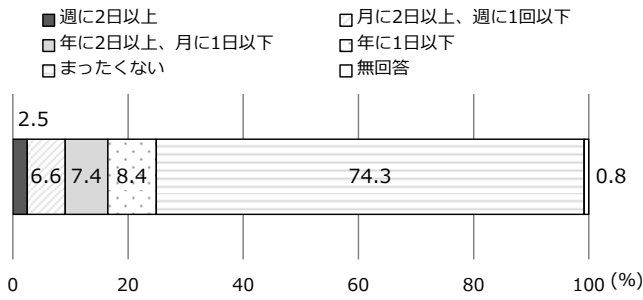
趣味や私的な交流を通じた付き合いをみると、「SNS などオンライン上の交流」29.3%、「スポーツ観戦以外の趣味のサークル・同好会」28.8%、「勉強会・セミナー・習い事」24.9%、「スポーツ観戦グループ」20.7%であり、いずれも2〜3割程度であった。

地域の活動や行政の場を通じた付き合いは、「地域のイベントや祭りの実行委員会」23.7%、「地域のボランティア団体」17.5%、「PTA・学校関連・その他保護者の集まり」16.1%、「行政が主催する勉強会・イベントなど」15.3%であった。「NPO・NGO 団体」や「老人会・シニアクラブ」の人びとと付き合いがある割合は1割未満で、「まったくない」がそれぞれ95.3%、93.9%を占めた。

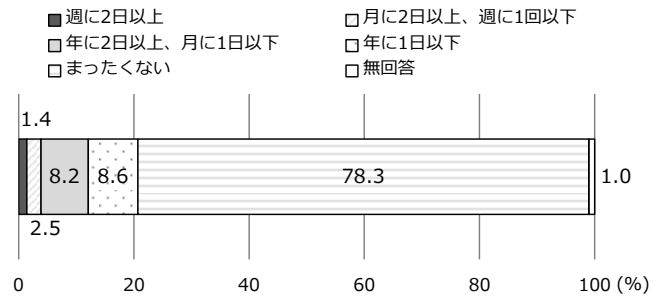
図表 3-2 地域における付き合い(全体)



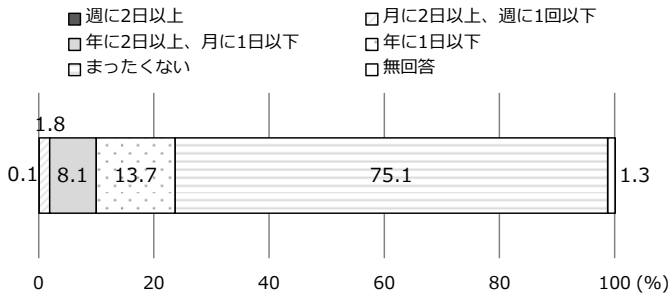
勉強会・セミナー・習い事 (n=958)



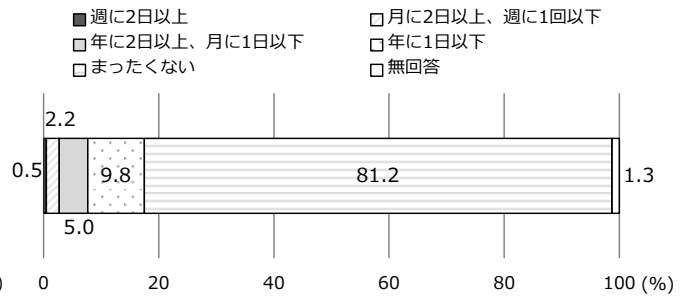
スポーツ観戦グループ (n=958)



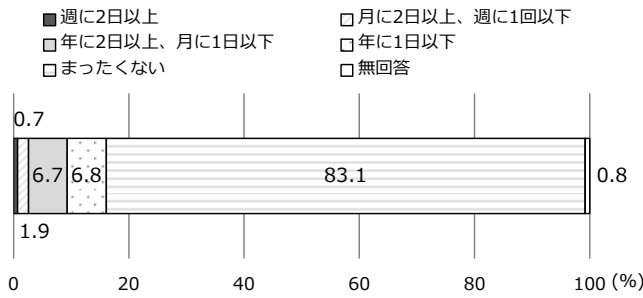
地域のイベントや祭りの実行委員会 (n=958)



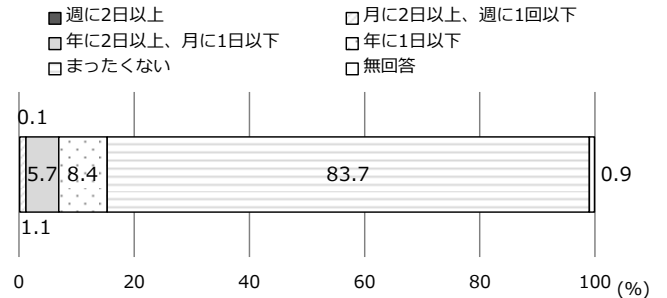
地域のボランティア団体 (n=958)



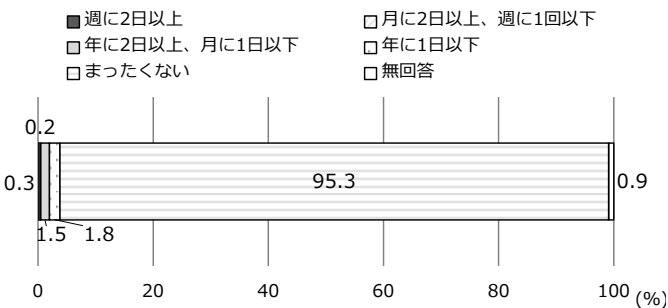
PTA・学校関連・その他保護者の集まり (n=958)



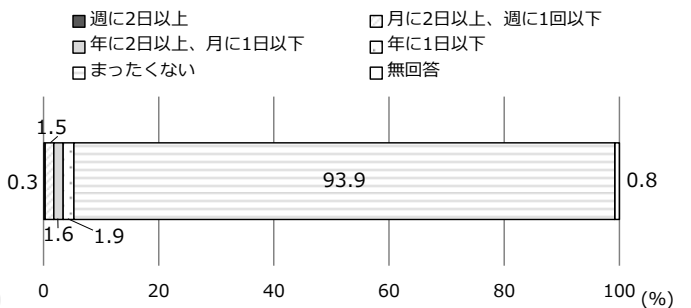
行政が主催する勉強会・イベントなど (n=958)



NPO・NGO団体 (n=958)



老人会・シニアクラブ (n=958)



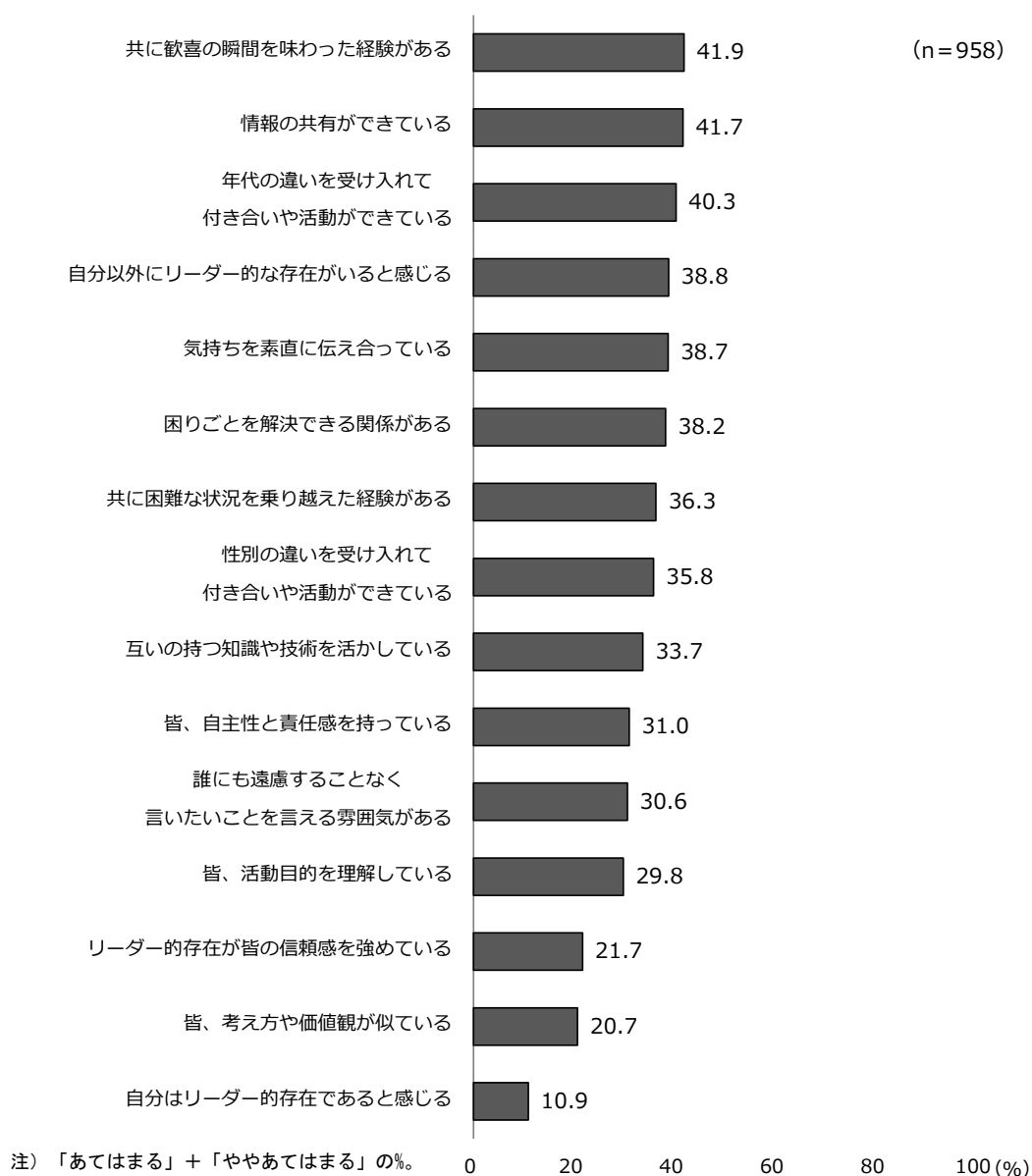
3.3 社会関係の正の側面

人びととの付き合い(社会関係)に関しては、信頼や協力などの正の側面と、閉鎖性や排他性などの負の側面がある。調査票では、普段から関わりが深い地域の人びと(家族・親戚を除く)を思い浮かべて、各質問にどの程度あてはまるか回答してもらった。

「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計値をみると、「共に歓喜の瞬間を味わった経験がある」が 41.9%と最も高く、次いで「情報の共有ができていいる」41.7%、「年代の違いを受け入れて付き合いや活動ができていいる」40.3%であった(図表 3-3)。また、「自分以外にリーダー的な存在がいると感じる」38.8%、「気持ちを素直に伝え合っている」38.7%、「困りごとを解決できる関係がある」38.2%、「共に困難な状況を乗り越えた経験がある」36.3%、「性別の違いを受け入れて付き合いや活動ができていいる」35.8%などが続いた。

一方、「リーダー的存在が皆の信頼感を強めている」は 21.7%、「皆、考え方や価値観が似ていいる」は 20.7%と、2 割程度であった。また、「自分はリーダー的存在であると感じる」は 10.9%と最も低かった。

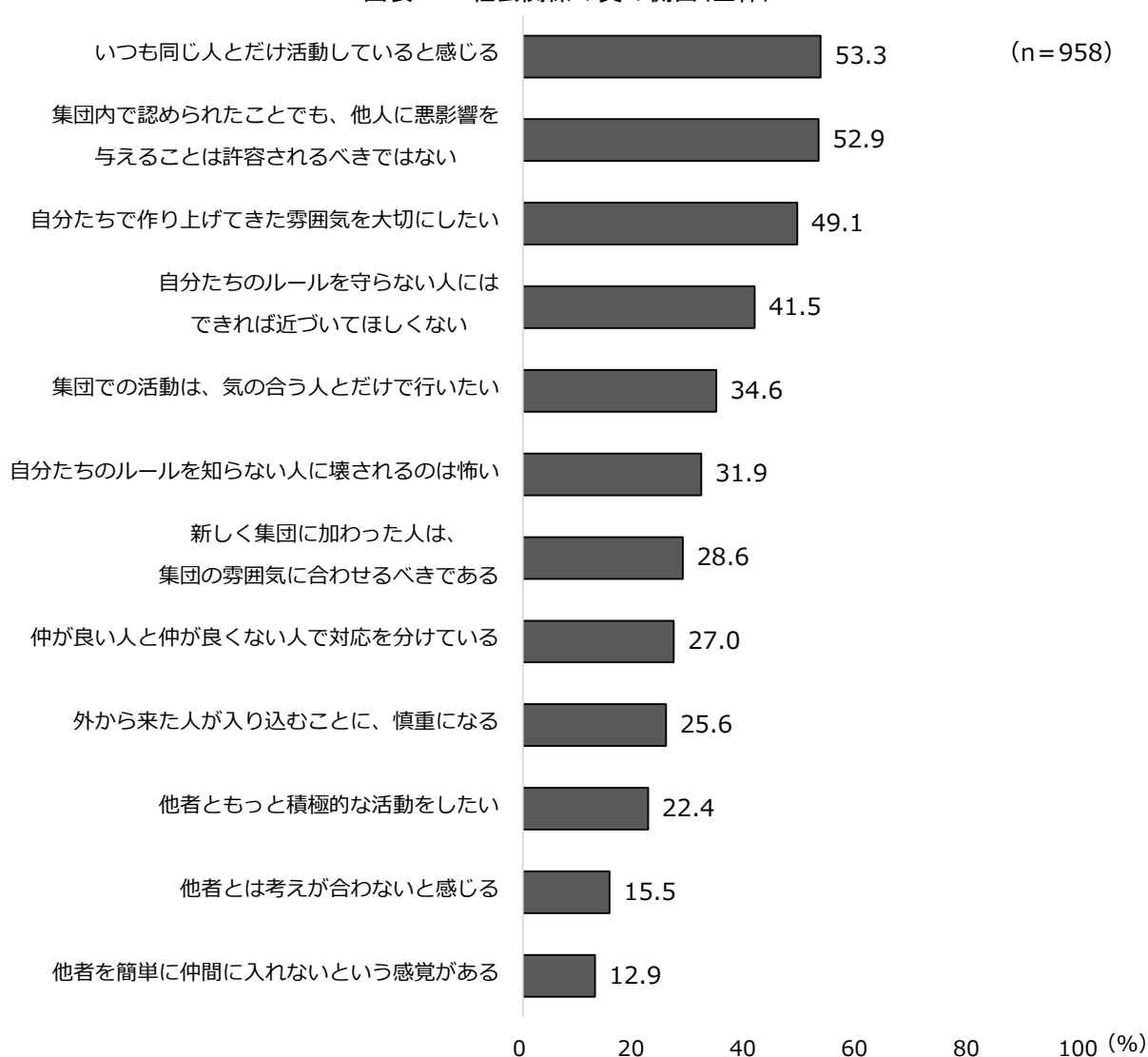
図表 3-3 社会関係の正の側面(全体)



3.4 社会関係の負の側面

続いて閉鎖性や排他性などの負の側面に関する項目を確認する。「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計値をみると、「いつも同じ人とだけ活動していると感じる」が 53.3%と最も高く、次いで「集団内で認められたことでも、他人に悪影響を与えることは許容されるべきではない」52.9%、「自分たちで作り上げてきた雰囲気大切にしたい」49.1%であった(図表 3-4)。「他者とは考えが合わないと感じる」は 15.5%、「他者を簡単に仲間に入れないという感覚がある」は 12.9%とそれぞれ 1 割台となり、ほかの項目に比べて低かった。

図表 3-4 社会関係の負の側面(全体)

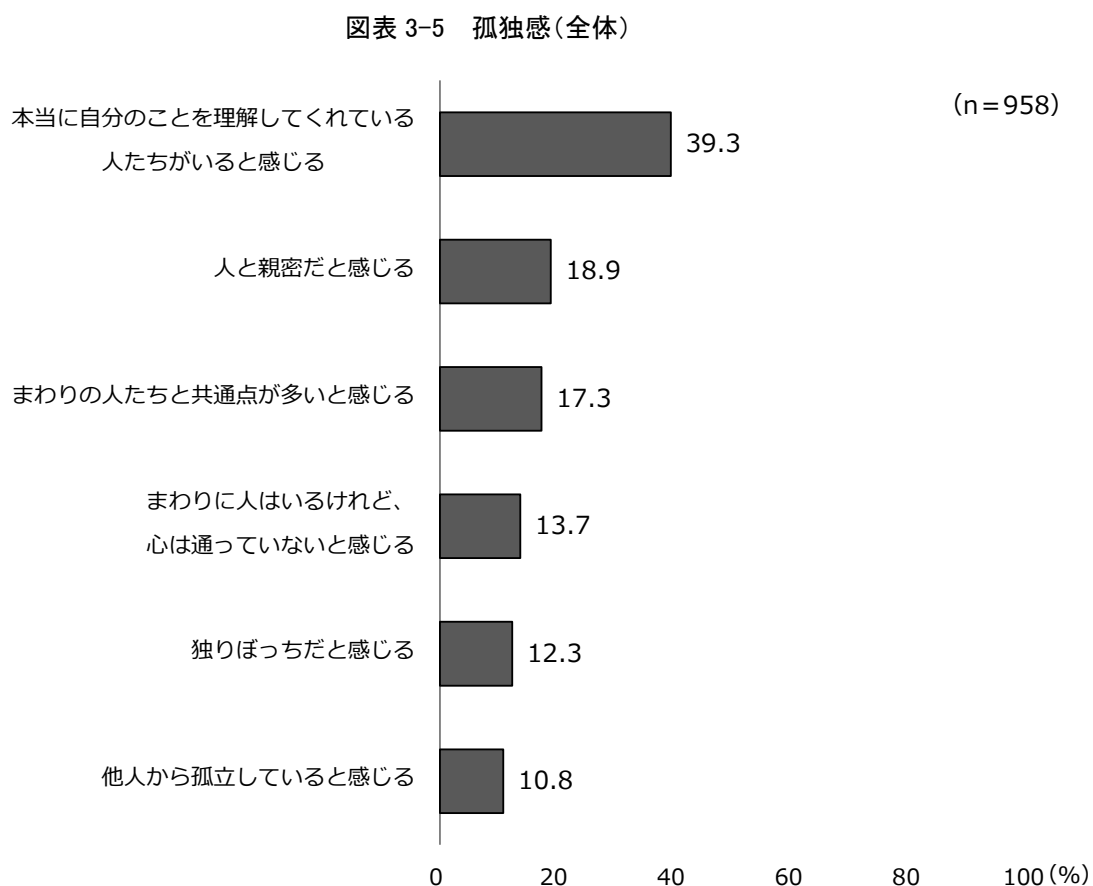


注)「あてはまる」+「ややあてはまる」の%。

3.5 孤独感

地域の人びととの付き合いにおける孤独感に関する項目を整理した。全体では「本当に自分のことを理解してくれている人たちがいると感じる」39.3%、「人と親密だと感じる」18.9%、「まわりの人たちと共通点が多いと感じる」17.3%で、逆転項目にあたる3項目の数値が比較的高かった(図表 3-5)。

一方、「まわりに人はいるけれど、心は通っていないと感じる」は 13.7%、「独りぼっちだと感じる」は 12.3%、「他人から孤立していると感じる」は 10.8%であった。



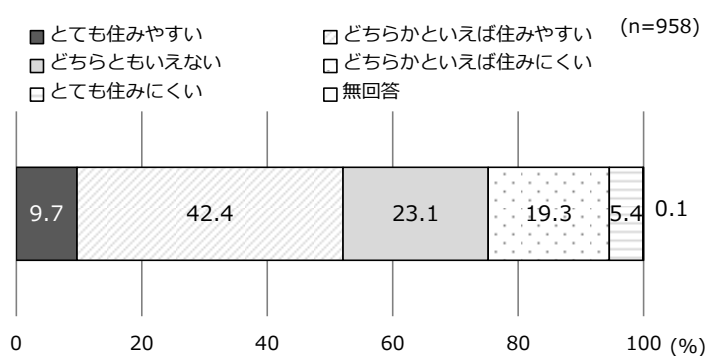
注)「あてはまる」+「ややあてはまる」の%。

3.6 市の住みやすさ・今後の居留意向

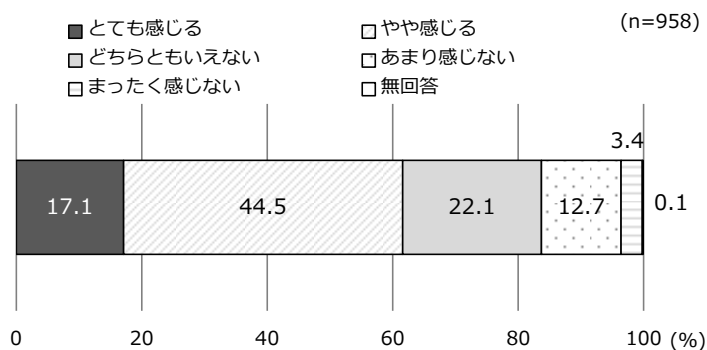
青森市が実施する「市民意識調査」を参照し、住みやすさや今後の居留意向をたずねた。住みやすさを5段階でたずねた結果をみると、「とても住みやすい」が9.7%、「どちらかといえば住みやすい」が42.4%で、過半数が青森市を住みやすいと評価していた(図表3-6-1)。

青森市に誇りや愛着を感じるかを5段階でたずねたところ、「とても感じる」が17.1%、「やや感じる」が44.5%で、6割以上が肯定的な回答をした(図表3-6-2)。今後も青森市に住みたいかについては、「ずっと住み続けたい」が23.4%、「できるなら住み続けたい」が30.7%、「市内の別の地域に住みたい」が3.2%で、あわせて57.3%が今後も青森市内に居住したい意向を示した(図表3-6-3)。「できれば市外に転居したい」と「すぐにでも市外に転居したい」をあわせて15.0%であった。

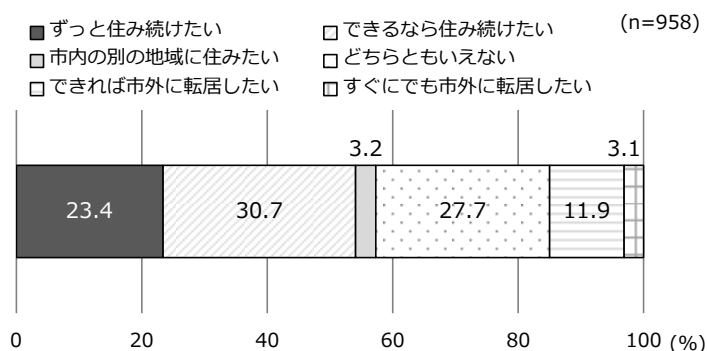
図表 3-6-1 住みやすさ(全体)



図表 3-6-2 市への誇りや愛着(全体)



図表 3-6-3 今後の居留意向(全体)



参考文献

- 青森市企画部広報広聴課(2025)令和 7 年度青森市民意識調査結果報告書,https://www.city.aomori.aomori.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/009/607/r7siminnisikityousakekkahoukokusyo.pdf, (参照日 2026 年 6 月 22 日).
- 青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ—第 80 回国民スポーツ大会・第 25 回全国障害者スポーツ大会ウェブサイト, <https://aomorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/>, (参照日 2026 年 6 月 22 日).
- 原田宗彦・鴨井啓・富山浩三(1992)国民体育大会に対する開催地住民の意識—沖縄・京都・北海道の事例.体育学研究 37,305-313.
- 神野賢治・菊幸一・松永敬子(2019)国民体育大会の開催が地域に与える社会的インパクトに関する研究—スポーツ推進と地方文化の発展を視座に,2018 年度笹川スポーツ研究助成研究成果報告書,74-80.
- 神野賢治・山本浩二・谷口勇一(2013)国民体育大会が青少年に与える教育的効果に関する調査研究. SSF スポーツ政策研究 2(1), 325-334.
- 神野賢治・山本浩二・谷口勇一(2014)国民体育大会の教育的効果に関する調査研究—学校活動に対する意識変化や社会性の獲得に着目して,九州レジャー・レクリエーション研究 3, 31-40.
- 厚生労働省(2024)健康づくりのための睡眠ガイド 2023, <https://www.mhlw.go.jp/content/001305530.pdf>, (参照日 2026 年 6 月 22 日).

6800349

国民スポーツ大会に関する開催地住民調査

調査へのご協力をお願い

このアンケートは、第 80 回国民スポーツ大会および第 25 回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」（以下、あおもり国スポ・障スポ）の開催におけるさまざまな効果を検証するために、青森市民の皆様を対象に実施しております。回答内容は統計的に処理され、個人が特定されたり、個別に公表されたりすることは一切ありません。また本調査研究以外には使用いたしません。

ご不明点等ございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【研究代表者】富山大学教育学部 准教授 神野 賢治

【調査実施主体】公益財団法人笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階

ホームページ <https://www.ssf.or.jp/>

【お問い合わせ先】株式会社日本リサーチセンター

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-25 【担当：江沢・蔵田】

ホームページ <https://www.nrc.co.jp/>

お問い合わせ(フリーダイヤル)：0120-994-768 (平日午前10時～午後5時)



1) 性別(○は1つ)・年齢	1 男性 2 女性 3 回答しない	() 歳
2) 青森市での居住年数(旧青森市、旧浪岡町 当時も含めて、お答えください。) (○は1つ)	1 5年以内 2 6～9年 3 10～19年 4 20～29年 5 30～39年 6 40年以上	
3) 職業(○は1つ)	1 農・林・漁業 4 パート・アルバイトなど 7 無職 2 給与所得者 5 主婦・主夫 8 その他 3 自営業 6 学生 ()	
4) 現在一緒に住んでいるご家族はどなたですか。 (いくつでも○)	1 親(義理の親を含む) 4 子ども(小学生以上) 7 孫 2 配偶者・パートナー 5 祖父母 8 一人暮らし 3 子ども(未就学児) 6 兄弟・姉妹 9 その他の家族 ()	
5) 過去1年間の運動・スポーツ実施状況について、以下の中から最もあてはまるものを選んでください。(○は1つ)	1 週に5日以上(年251日以上) 2 週に3～4日(年151～250日) 3 週に1～2日(年51～150日) 4 月に1～3日(年12～50日) 5 月に1回未満(年1～11日) 6 実施していない	
6) 次の中で、この1年間に実施したものの <u>すべて</u> に○をつけてください。(いくつでも○) ※「 <u>あおり国スポ</u> 」については除きます。	1 スタジアムや体育館などで直接スポーツの試合を観戦したこと 2 テレビやインターネットでスポーツの試合を観戦したこと 3 スポーツを指導する仕事 4 スポーツにかかわるボランティア(無償または実費程度で行う指導・審判・大会運営など) 5 あてはまるものはない	

ここからはあおもり国スポについてお聞きします

問7.「あおもり国スポ」についてどの程度ご存じですか。(〇は1つ)

1 まったく知らない	3 まあ知っている
2 あまり知らない(聞いたことはある)	4 よく知っている

問8. あなたは「あおもり国スポ冬季大会」に関わりましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(いくつでも〇)

1 選手	7 学校でのおもてなし活動(花飾り・応援等)
2 指導者(監督・コーチ等)	8 現地で観戦した
3 演技者	9 インターネット等で観戦した
4 式典音楽隊(吹奏楽・合唱)	10 その他()
5 ボランティア	11 まったく関わりがない
6 競技補助員	

問9. あなたはあおもり国スポの試合(競技)を観戦したいと思いますか。

「1:まったくそう思わない」から「7:とてもそう思う」でお答えください。(それぞれ〇は1つ)

	まったく そう思わない どちらとも いえない とても そう思う						
1) 国スポ本大会(9～10月)	1	2	3	4	5	6	7
2) 障スポ(全国障害者スポーツ大会、10月)	1	2	3	4	5	6	7

問10. あおもり国スポについて、以下の内容をどれくらい知っていますか。

「1:まったく知らない」から「4:よく知っている」でお答えください。(それぞれ〇は1つ)

		まったく 知らない	あまり 知らない	まあ 知っている	よく 知っている
1) 実施される競技種目	→	1	2	3	4
2) 学生から社会人までが選手として参加すること	→	1	2	3	4
3) 都道府県対抗で順位が出ること	→	1	2	3	4
4) 一般参加が可能なデモンストレーションスポーツ(ウォークビンゴなど)	→	1	2	3	4
5) 事前申し込みや支払いをせずに観覧できる競技が多いこと	→	1	2	3	4
6) 大会運営にかかわるボランティア活動	→	1	2	3	4
7) 県内で冬季大会が開催されたこと	→	1	2	3	4
8) 本大会とあおもり障スポ(全国障害者スポーツ大会)が同時期に開催されること	→	1	2	3	4
9) 大会の公式アプリ	→	1	2	3	4
10) 国スポチャンネル(YouTubeでの動画配信)	→	1	2	3	4
11) 文化プログラム(近代文学館特別展「あおもりの文学とスポーツ」など)	→	1	2	3	4
12) 青の煌めきダンスコンテスト	→	1	2	3	4
13) 青のきらめき県民運動	→	1	2	3	4
14) もてな手話キャンペーン	→	1	2	3	4
15) 「あすなろ国体」(1977年県内で開催)にあわせて、市民体育館や総合運動公園が整備されたこと	→	1	2	3	4
16) 昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)	→	1	2	3	4

ここからは、普段感じることや人とのつながりについてお聞きします

問11. あなたは現在、どの程度幸せですか。

「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇は1つ)

とても不幸 とても幸せ										
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点

問12. あなたの地域において、家族・親戚以外で、下記の人々との付き合いの頻度を教えてください。

付き合いの頻度は、「0:まったく」、「1:年に1日以下」、「2:年に2日以上、月に1日以下」、「3:月に2日以上、週に1日以下」、「4:週に2日以上」でお答えください。(それぞれ〇は1つ)

	まったく ない	年に 1日以下	年に2日 以上、月に 1日以下	月に2日 以上、週に 1日以下	週に 2日以上
1) 自治会・町内会 →	0	1	2	3	4
2) 地域のボランティア団体 →	0	1	2	3	4
3) 地域のイベントや祭りの実行委員会 →	0	1	2	3	4
4) よく通うお店 →	0	1	2	3	4
5) 会社の同僚・仕事関係 →	0	1	2	3	4
6) 友人・知人 →	0	1	2	3	4
7) スポーツ観戦グループ →	0	1	2	3	4
8) スポーツ観戦以外の趣味のサークル・ 同好会(スポーツ、文化活動など) →	0	1	2	3	4
9) 勉強会・セミナー・習い事 →	0	1	2	3	4
10) SNS などオンライン上の交流 →	0	1	2	3	4
11) PTA・学校関連・その他保護者の集まり →	0	1	2	3	4
12) NPO・NGO 団体 →	0	1	2	3	4
13) 老人会・シニアクラブ →	0	1	2	3	4
14) 行政が主催する勉強会・イベントなど →	0	1	2	3	4

【問 13・14・15 は、あなたが普段から関わりが深い地域の人々(家族・親戚を除く)を思い浮かべて、各質問についてお答えください。】

問13. 以下の質問に、あなたはどの程度あてはまりますか。

「1:あてはまらない」から「5:あてはまる」でお答えください。(それぞれ〇は1つ)

	あてはま らない	あまりあて はまらない	どちらとも いえない	やや あてはまる	あてはまる
1) 困りごとを解決できる関係がある →	1	2	3	4	5
2) 気持ちを素直に伝え合っている →	1	2	3	4	5
3) 共に歓喜の瞬間を味わった経験がある →	1	2	3	4	5
4) 共に困難な状況を乗り越えた経験がある →	1	2	3	4	5
5) 情報の共有ができています →	1	2	3	4	5
6) 誰にも遠慮することなく言いたいことを 言える雰囲気がある →	1	2	3	4	5
7) 互いの持つ知識や技術を活かしている →	1	2	3	4	5
8) 自分以外にリーダー的な存在がいると感じる →	1	2	3	4	5

(次ページへ続く)

(前ページの続き)

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
9) 自分はリーダー的存在であると感じる →	1	2	3	4	5
10) リーダー的存在が皆の信頼感を強めている →	1	2	3	4	5
11) 年代の違いを受け入れて付き合いや活動ができている →	1	2	3	4	5
12) 性別の違いを受け入れて付き合いや活動ができている →	1	2	3	4	5
13) 皆、活動目的を理解している →	1	2	3	4	5
14) 皆、自主性と責任感を持っている →	1	2	3	4	5
15) 皆、考え方や価値観が似ている →	1	2	3	4	5

問14. 以下の質問に、あなたはどの程度あてはまりますか。(それぞれ○は1つ)

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1) いつも同じ人とだけ活動していると感じる →	1	2	3	4	5
2) 他者を簡単に仲間に入れないという感覚がある →	1	2	3	4	5
3) 他者とは考えが合わないと感じる →	1	2	3	4	5
4) 仲が良い人と仲が良くない人に対応を分けている →	1	2	3	4	5
5) 外から来た人が入り込むことに、慎重になる →	1	2	3	4	5
6) 集団での活動は、気の合う人とだけで行いたい →	1	2	3	4	5
7) 自分たちのルールを知らない人に壊されるのは怖い →	1	2	3	4	5
8) 自分たちのルールを守らない人にはできれば近づいてほしくない →	1	2	3	4	5
9) 自分たちで作り上げてきた雰囲気を大切にしたい →	1	2	3	4	5
10) 新しく集団に加わった人は、集団の雰囲気に合わせるべきである →	1	2	3	4	5
11) 他者とともに積極的な活動をしたい →	1	2	3	4	5
12) 集団内で認められたことでも、他人に悪影響を与えることは許容されるべきではない →	1	2	3	4	5

問15. あなたは普段の生活において、以下の質問についてどの程度あてはまりますか。(それぞれ○は1つ)

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1) 独りぼっちだと感じる →	1	2	3	4	5
2) まわりの人たちと共通点が多いと感じる →	1	2	3	4	5
3) 人と親密だと感じる →	1	2	3	4	5
4) 他人から孤立していると感じる →	1	2	3	4	5
5) 本当に自分のことを理解してくれている人たちがいると感じる →	1	2	3	4	5
6) まわりに人はいるけれど、心は通っていないと感じる →	1	2	3	4	5

最後に、お住まいの地域や日常生活についてお聞きします

問16. あなたにとって、青森市は住みやすい市ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 とても住みやすい | 4 どちらかといえば住みにくい |
| 2 どちらかといえば住みやすい | 5 とても住みにくい |
| 3 どちらともいえない | |

問17. あなたは、青森市に誇りや愛着を感じますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|----------|---------|-----------------|-----------|----------------|
| 1 とても感じる | 2 やや感じる | 3 どちらとも
いえない | 4 あまり感じない | 5 まったく
感じない |
|----------|---------|-----------------|-----------|----------------|

問18. あなたは、今後も青森市に住みたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 4 どちらともいえない |
| 2 できるなら住み続けたい | 5 できれば市外に転居したい |
| 3 市内の別の地域に住みたい | 6 すぐにでも市外に転居したい |

問19. 過去1週間で、休日または仕事・家事・移動以外の自由時間に、中程度(息が上がるが会話は可能)以上の運動・スポーツを実施しましたか。(○は1つ)
(例:軽いジョギング、水泳、スキー、ダンス等の中強度のスポーツや格闘技、激しい球技、マラソン等の高強度のスポーツのこと。散歩、体操、ゴルフ等の低強度のスポーツは含まない。)

- | | |
|-------|---------------------|
| 1 はい | →このあとの A にもご回答ください。 |
| 2 いいえ | →問 20 へ進んでください。 |

【問19で「1 はい」とお答えの方】

A. 過去1週間で休日または仕事・家事・移動以外の自由時間に運動・スポーツを行った場合、実施頻度と1回あたりの実施時間はどれにあてはまりますか。

(それぞれ○は1つ)

〔運動・スポーツの実施頻度〕

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 週 1～2 日 | 2 週 3～4 日 | 3 週 5 日以上 |
|-----------|-----------|-----------|

〔1 回あたりの実施時間〕

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1 30 分未満 | 3 1～2 時間未満 | 5 3～4 時間未満 |
| 2 30～60 分未満 | 4 2～3 時間未満 | 6 4 時間以上 |

問 20. 過去1週間、仕事・家事・移動などの日常生活の中で、1 日の力作業を行った時間はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

(例: 耕作、雪かき、子どもや動物と活発に遊ぶ、農作業、荷物の運搬、ハードな速歩、階段を速く上る)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1 なし | 4 3～5 時間未満 | 7 9～11 時間未満 |
| 2 1 時間未満 | 5 5～7 時間未満 | 8 11 時間以上 |
| 3 1～3 時間未満 | 6 7～9 時間未満 | |

問21. 普段の飲酒状況について、以下の中から最もあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

- | | | | | |
|--------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 1 飲まない | 2 月 1～3 日 | 3 週 1～2 日 | 4 週 3～5 日 | 5 週6回以上 |
|--------|-----------|-----------|-----------|---------|

問 22. 普段の喫煙状況について、以下の中から最もあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

- 1 吸わない 2 現在は吸わない(過去に吸っていた) 3 吸っている

問23. 普段の睡眠時間について、以下の中から最もあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

- 1 6時間未満 2 6時間以上

問24. あなたのご家庭の世帯年収(税込)はおよそどれくらいですか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------------|------------------|---------------------|
| 1 収入はなかった | 5 400 万～500 万円未満 | 9 800 万～900 万円未満 |
| 2 200 万円未満 | 6 500 万～600 万円未満 | 10 900 万～1,000 万円未満 |
| 3 200 万～300 万円未満 | 7 600 万～700 万円未満 | 11 1,000 万円以上 |
| 4 300 万～400 万円未満 | 8 700 万～800 万円未満 | 12 わからない・答えたくない |

問25. 最後に、あおり国スポ・障スポについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

[illegible]

質問は以上です。
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

国民スポーツ大会に関する開催地住民調査 (2025 年度調査)

2026 年 8 月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3 階

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <https://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。

